



BR500S 簡易設定マニュアル

はじめに

本書では、工事者向けマニュアルとして、Bフレッツを適用する法人向けIP電話サービス、フレッツ・グループアクセスを事例とした簡易設定手順を説明しています。

本装置の詳細設定につきましては、「BR500S 取扱説明書」を参照ください。

2008年9月

本装置の外観・仕様は、予告なしに変更することがあります。

本装置は日本国内用に設計されています。海外では使用できません。

This equipment is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

本ドキュメントには「外国為替及び外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれています。

従って本ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、当社のサービス取扱所へお申しつけください。

©2008 NTTEAST・NTTWEST

目次

はじめに	2
本書の構成と使いかた	5
本書の取り扱いについて	5
本書の読者と前提知識	5
本書の構成	5
本書における商標の表記について	6
安全上のご注意	7
警告表示について	7
メンテナンスに関するご注意	10
使用上のご注意	10
ツイストペアケーブルの除電について	10
セキュリティの確保について	10
清掃について	10
電波障害自主規制について	11
ハイセイフティについて	11
ラック搭載およびテーブルタップへの接続時のご注意	11
電源コネクタ（給電用）について	11
廃棄（または譲渡、返却）する場合のご注意	11
お取り扱い上の注意事項	12
第 1 章 お使いになる前に.....	13
1.1 梱包内容／各部の名称と働き	14
1.1.1 梱包内容	14
1.1.2 本装置 前面	15
1.1.3 本装置 背面	17
1.1.4 本装置 側面	18
1.1.5 本装置 上面	19
1.1.6 本装置 底面	20
1.2 ケーブルホルダの取り付け方法	21
第 2 章 機器の設置.....	22
2.1 設置環境を確認する	23
2.1.1 設置条件を確認する	23
2.1.2 設置スペースを確認する	24
2.2 設置する（ラック搭載時）	26
2.2.1 ラックに搭載する	27
2.3 設定用パソコンを接続する	29
2.3.1 LAN で接続する	29
2.3.2 コンソールポートに接続する	37
第 3 章 設定の準備.....	41
3.1 WWW ブラウザを準備する	42
3.2 WWW ブラウザを起動して本装置のトップページを表示させる	44
3.3 パスワードを設定する	45
3.3.1 ログインパスワードを入力する	46
3.4 時計を設定する	47
3.5 文字入力フィールドで入力できる文字一覧	48

第 4 章	B フレッツサービスの設定例	49
4.1	接続構成例	50
4.1.1	利用形態	50
4.1.2	物理接続構成	51
4.1.3	ネットワーク接続構成	52
4.2	IP 電話サービスの設定	53
4.3	フレッツ・グループアクセスの設定	59
4.4	IPv6 サービスの設定	64
4.5	インターネット (ISP) 接続の設定	68
4.6	PPPoE ブリッジの設定	71
索引	75

本書の構成と使いかた

本書では、本装置の設置とBフレッツサービスの設定例について説明しています。

また、CD-ROMの中のREADMEファイルには大切な情報が記載されていますので、併せてお読みください。

本書の取り扱いについて

本取扱説明書には、本装置を安全に使用していただくための重要な情報が記載されています。

本装置を使用する前に本書を熟読してください。特に本書に記載されている「安全上のご注意」をよく読み、理解されたうえで本装置を使用してください。また、本書は本装置の使用上、いつでも参照できるように大切に保管してください。

お客様の生命、身体、財産に被害をおよぼすことなく弊社製品を安全に使っていただくために細心の注意を払っています。本装置を使用する際には、本書の説明に従ってください。

本書の読者と前提知識

本書は、本装置の設置または設定される方を対象に記述しています。

本書を利用するにあたって、ネットワークおよびインターネットに関する基本的な知識が必要です。

本書の構成

以下に、本書の構成と各章の内容を示します。

章タイトル	内 容
第1章 お使いになる前に	この章では、本装置の梱包内容および各部の名称と働きについて説明します。
第2章 機器の設置	この章では、本装置の設置および設定用パソコンの接続について説明します。
第3章 設定の準備	この章では、WWWブラウザで本装置を設定するための準備を説明します。
第4章 Bフレッツサービスの設定例	この章では、Bフレッツ回線上で法人向けIP電話サービス、インターネット、フレッツ・グループアクセスを利用する場合を例に、WWWブラウザを利用した設定手順について説明します。

マークについて

本書で使用しているマーク類は、以下のような内容を表しています。



ヒント 本装置をお使いになる際に、役に立つ知識をコラム形式で説明しています。

こんな事に気をつけて

本装置をご使用になる際に、注意していただきたいことを説明しています。



補足 操作手順で説明しているものの他に、補足情報を説明しています。



参照 操作方法など関連事項を説明している本書および取扱説明書（CD-ROM）の該当箇所を示します。



警告 製造物責任法（PL）関連の警告事項をあらわしています。本装置をお使いの際は必ず守ってください。



注意 製造物責任法（PL）関連の注意事項をあらわしています。本装置をお使いの際は必ず守ってください。

本書における商標の表記について

Microsoft、Windows および Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Adobe、および Reader は、Adobe System Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

Windows[®] XP の正式名称は、Microsoft[®] Windows[®] XP Professional operating system、または Microsoft[®] Windows[®] XP Home Edition operating system です。

Windows[®] Me の正式名称は、Microsoft[®] Windows[®] Millennium Edition operating system です。

Windows[®] 98 の正式名称は、Microsoft[®] Windows[®] 98 operating system です。

Windows[®] 95 の正式名称は、Microsoft[®] Windows[®] 95 operating system です。

Windows[®] 2000 の正式名称は、Microsoft[®] Windows[®] 2000 Server Network operating system、または Microsoft[®] Windows[®] 2000 Professional operating system です。

Windows NT[®] 4.0 の正式名称は、Microsoft[®] Windows NT[®] Server network operating system Version 4.0、または Microsoft[®] Windows NT[®] Workstation operating system Version 4.0 です。

B フレッツは、NTT 東日本・NTT 西日本のサービス名であり、登録商標です。

フレッツ・ADSL は、NTT 東日本・NTT 西日本の登録商標です。

本書に記載されているその他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

安全上のご注意

警告表示について

本書では、人身への危害や財産を未然に防ぎ、本装置を安全に使用いただくために守っていただきたい事項を表示しています。以下の表示と記号の意味、内容をよくご理解のうえ、本書をお読みください。

**警告**

正しく使用しない場合、死亡や重傷など、人体への重大な障害をもたらすおそれがあることを示します。

**注意**

正しく使用しない場合、軽傷または中程度の傷害を負うおそれがあることを示します。
また、本装置や本装置に接続している機器に損害を与えるおそれがあることを示します。

危害や損害の内容を示すために、以下の記号を使用しています。

記号	記号の意味
	△ で表示された記号は、警告や注意事項を示しています。記号の中やその脇には、具体的な内容が記載されています。
	○ で表示された記号は、してはいけない禁止行為を示しています。記号の中やその脇には、具体的な内容が記載されています。
	● で表示された記号は、必ず従っていただく行為の強制、指示を示しています。記号の中やその脇には、具体的な内容が記載されています。

**警告**

本装置を安全にお使いいただくために、必ずお守りください。正しく使用しない場合、死亡や重傷など、人体への重大な障害をもたらすおそれがあることを示します。

警告事項			
 分解禁止	<p>本装置の分解・解体・改造・再生を行わないでください。 感電・火災・故障の原因となります。</p>	 アース線接続	<p>必ずアース接続してください。 アース接続しないで使用すると、感電のおそれがあります。 アース接続は、必ず電源プラグをコンセントに接続する前に行ってください。 アース接続を外すときには、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。</p>
 禁止	<p>電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。 電源ケーブルの上に物をのせたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりして、電源コードを傷めないでください。 感電や火災のおそれがあります。 その他のケーブル類も同様です。</p>	 禁止	<p>表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。 また、タコ足配線をしないでください。 感電・火災の原因となります。</p>
 ぬれ手禁止	<p>ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電のおそれがあります。</p>	 禁止	<p>電源ケーブルや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。 そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。</p>
 接触禁止	<p>近くで雷が発生したときは、本装置、電源ケーブルおよびその他のケーブルに触れないでください。 感電の原因となります。</p>	 プラグを抜く	<p>万一、発熱、発煙、異臭がするなどの異常が発生した場合は、ただちに使用を中止してください。 すぐに電源ケーブルのプラグをコンセントから抜き、煙などの異常が出なくなるのを確認し、弊社の技術員または弊社が認定した技術員に連絡してください。 そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。</p>
 異物禁止 プラグを抜く	<p>本装置の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどの、異物を差し込んだり、落としたりしないでください。 また、水などの液体を入れないでください。 万一、異物や液体が入った場合は、まず電源プラグをコンセントから抜いて、弊社の技術員または弊社が認定した技術員に連絡してください。 そのまま使用すると、感電・火災・故障の原因となります。</p>	 禁止	<p>インタフェースコネクタには、適合する回線のコネクタ以外のものを絶対に差し込まないでください。 感電・故障の原因となります。</p>
 感電注意	<p>サービスマン以外は、カバーを開けないでください。 また、保守時には、必ず電源ケーブルを抜いてください。 感電のおそれがあります。</p>	 注意	<p>梱包に使用しているビニール袋は、お子さまが口に入れたり、かぶって遊んだりしないようにしてください。 窒息の原因となります。</p>
 注意	<p>取り外したネジなどは、小さなお子さまが誤って飲み込むことがないように、小さなお子さまの手の届かないところに置いてください。 万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。</p>	 禁止	<p>清掃の際、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。 火災・故障の原因となります。</p>

**注意**

正しく使用しない場合、軽傷または中程度の傷害を負うおそれがあることを示します。
また、本装置や本装置に接続している機器に損害を与えるおそれがあることを示します。

注意事項			
 禁止	電源が入っている状態で本装置に長時間（1分以上）触れないでください。 低温火傷の原因となることがあります。	 禁止	本装置は、縦置きにしないでください。 横置きは2段まで積み重ねることができます。 3段以上または本装置以外は積み重ねないでください。 落下による負傷・破損・故障の原因となります。
 禁止	本装置の上に物を置いたり、本装置の上で作業したりしないでください。 本装置が破損・故障したり、作業者が負傷したりするおそれがあります。	 禁止	本装置をぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に設置しないでください。 また、強い衝撃や振動の加わる場所で使用しないでください。 落下による怪我・破損・故障の原因となります。
 !	本装置は、屋内に設置してください。 屋外に設置すると故障の原因となります。	 !	国内でだけ使用してください。 本装置は、国内仕様になっていますので、海外では使用できません。
 禁止	極端な高温または低温状態や温度変化の激しい場所で使用しないでください。 故障の原因となります。本装置の使用温度範囲を守ってください。	 禁止	本装置を薬品の噴霧気中や薬品に触れる場所など腐食性ガス発生環境下では使用しないでください。 破損・故障の原因となります。
 禁止	電子レンジなど、強い磁界を発生する装置のそばで使用しないでください。 故障の原因となります。	 !	本装置の通気孔の確保およびケーブル処理に必要な空間をとってください。 本装置を並べて使用する場合でも、それぞれに必要なサービスエリアを設けてください。 ケーブルの障害や故障の原因となります。
 !	本装置を移動するときは、必ず電源ケーブルを抜いてください。 故障の原因となります。	 !	配線工事は、正しく行ってください。 正しい配線工事を行わないと正常な通信が行えないだけでなく、本装置の故障にもつながります。
 禁止	直射日光の当たる場所や暖房機の近く、湿気、ホコリの多い場所には置かないでください。 感電や火災のおそれがあります。	 禁止	本装置内部が高温になるため、通気孔をふさがないでください。 火災のおそれがあります。
 !	電源ケーブルは、プラグ部分をもってコンセントから抜いてください。 プラグが傷んで感電や火災のおそれがあります。	 !	電源プラグは、電源コンセントに確実に奥まで差し込んでください。 差し込みが不十分な場合、感電・発煙・火災の原因となります。
 !	電源プラグの金属部分およびその周辺にホコリが付着している場合は、乾いた布でよくふき取ってください。 そのまま使用すると、火災の原因となることがあります。	 禁止	使用中の本装置を布で覆ったり、包んだりしないでください。 熱がこもり、火災の原因となることがあります。
 禁止	ラジオやテレビジョン受信機のそばで使用しないでください。 ラジオやテレビジョン受信機に雑音が入る場合があります。		

メンテナンスに関するご注意

- 決してご自身では修理を行わないでください。故障の際は、弊社の技術員または弊社が認定した技術員によるメンテナンスを受けてください。
- 本装置をご自身で分解したり改造したりしないでください。本装置の内部には、高電圧の部分および高温の部分があり危険です。

使用上のご注意

- 本製品を安定した状態でご使用になれる期間は5年が目安です。これは使用環境温度が25℃、湿度20～80%（RH）を想定した数値です。
- 本製品として提供される取扱説明書、装置本体およびファームウェアは、お客様の責任においてご使用ください。
- 本製品の使用によって発生する損失やデータの損失については、弊社では一切責任を負いかねます。また、本製品の障害の保証範囲はいかなる場合も、本製品の代金としてお支払いいただいた金額を超えることはありません。あらかじめご了承ください。
- 本製品にて提供されるファームウェアおよび本製品用として弊社より提供される更新用ファームウェアを、本製品に組み込んで使用する以外の方法で使用する、また、改変や分解を行うことは一切許可していません。
- ISDN Uポートにケーブルを接続する場合は、接続相手がISDN基本インタフェースであることを確認してください。異なるインタフェースを接続した場合、故障・焼損することがあります。コネクタ形状（RJ-11、2ピンモジュラーコネクタ）が同じでも、ISDN回線でないことがあります。アナログ回線やビジネス電話など宅内交換機との接続コネクタである可能性がありますので、配線工事を行った業者などに事前にご使用になるコネクタがISDNであることを確認してください。

ツイストペアケーブルの除電について

ツイストペアケーブルは、ご使用の環境などによって、静電気が帯電することがあります。静電気が帯電したツイストペアケーブルをそのまま機器に接続すると、機器または機器の接続ポート（LAN／BRI）が誤動作したり、壊れたりすることがあります。

機器に接続する直前に静電気除去ツールなどをご使用いただき、ツイストペアケーブルに帯電している静電気をアース線などに放電して接続してください。

また、静電気を放電したあと、接続しないまま長時間放置すると、放電効果が失われますのでご注意ください。

セキュリティの確保について

パスワードを設定しない場合、ネットワーク上のだれからでも本装置の設定を行うことができます。セキュリティの面からは非常に危険なため、パスワードを設定することを強く推奨します。

- 参照 BR500S コマンドユーザズガイド「[1.2 パスワードを設定する](#)」(P.8)
- BR500S Web ユーザズガイド「[1.4 パスワードを設定する](#)」(P.11)

清掃について

本装置を清掃する場合、布に水（または水で薄めた中性洗剤）を含ませ、固く絞ってからふいてください。

ふき取りのときに、本装置のスイッチ類やすきまなどに、水が入らないように十分にご注意ください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合、使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

ハイセイフティについて

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。

お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

ラック搭載およびテーブルタップへの接続時のご注意



警告

本装置をラックへ搭載する場合は、使用温度環境の管理、物理的安定性の確保、漏えい電流に対する注意が必要です。本装置のラックへの搭載は、これらの知識を有した技術者が行ってください。感電、火災などの原因となります。

- 本装置の動作保証温度、湿度を超えないように、ラック内外の温度と湿度を管理してください。
- 本装置は、側面吸排気の構造となっております。吸気面および排気面をふさがないように設置してください。
- 搭載するラックの最大積載量を考慮して搭載してください。
- 設置場所の電源供給能力を確認して設置してください。
- 本装置の電源ケーブルをテーブルタップに接続する場合、テーブルタップの接地線を通して大漏えい電流が流れることがあります。電源接続に先立ち、必ず接地接続を行ってください。電源ケーブルが分電盤に直接接続されない場合、工業用プラグをもったテーブルタップを使用してください（本装置の漏えい電流は最大0.25mAです）。

電源コネクタ（給電用）について



注意

- 電源コネクタ（給電用）でご使用になる電流容量は最大0.5Aです。0.5Aを超える電流を消費する装置は接続しないでください。故障の原因となります。
- 本装置は、電源スイッチのみを切断しても電源コネクタ（給電用）は通電状態です。電源コネクタ（給電用）を用いて、ほかの装置を使用する際は、注意してください。

廃棄（または譲渡、返却）する場合のご注意

本製品は、お客様固有の情報を保存または保持可能な製品です。本製品内に保存または保持された情報の流出による不測の損害などを回避するために、本製品を廃棄（または譲渡、返却）される場合は、本製品内に保存または保持された情報を消去する必要があります。

保存または保持された情報を消去するには、工場出荷時の設定に戻す（初期化する）操作を行ってください。

☛ 参照 BR500S ご利用にあたって「3.3 ご購入時の状態に戻すには」(P.50)

お取り扱い上の注意事項

本装置を取り扱う際に、以下の点に注意してください。

- 本装置は、雷や静電気などに対する保護回路を内蔵しています。そのため、雷や静電気などが装置内に進入すると、一部機能が使用できなくなることがあります。
この場合、装置の電源を再投入することで正常な状態に復旧します。なお、電源を再投入しても一部機能が使用できない、または、電源が入らない場合は、「保護回路で保護しきれない状態となり装置が破壊された」と考えられます。このような場合は、弊社の技術員または弊社が認定した技術員にご確認ください。
- ファームウェアの更新中は、絶対に電源の切断またはリセットを行わないでください。更新中に電源を切断またはリセットした場合は、装置が起動しなくなります。
- 本製品に関する取扱説明書は、添付のCD-ROMにPDF形式で収録されています。ご覧になる場合は、PDF閲覧ソフトAdobe Readerが必要になります。

第1章 お使いになる前に



この章では、本装置の梱包内容および各部の名称と働きについて説明します。

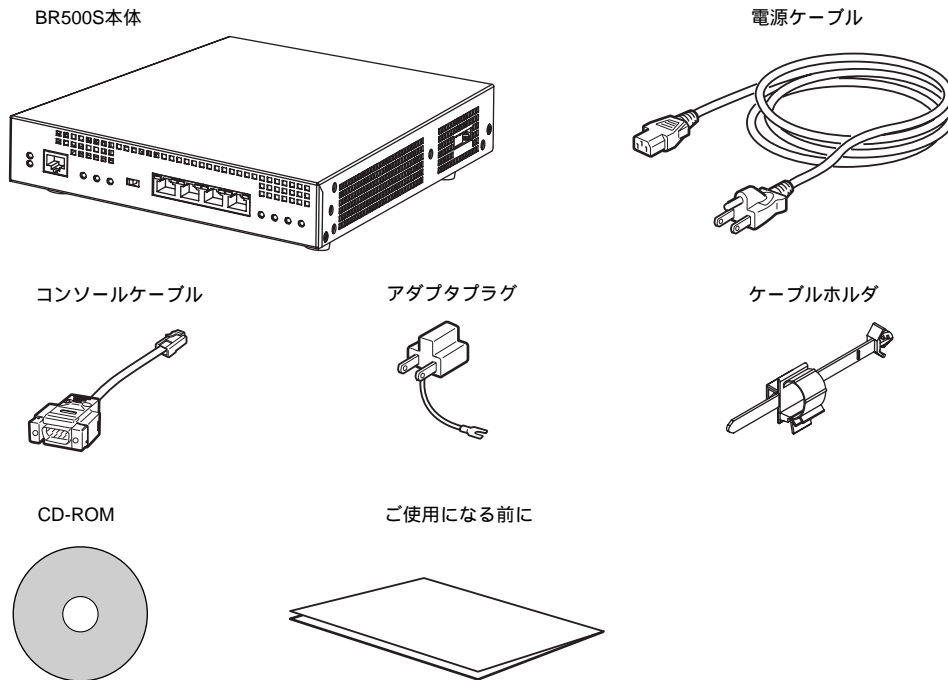
1.1	梱包内容／各部の名称と働き.....	14
1.1.1	梱包内容.....	14
1.1.2	本装置 前面	15
1.1.3	本装置 背面	17
1.1.4	本装置 側面	18
1.1.5	本装置 上面	19
1.1.6	本装置 底面	20
1.2	ケーブルホルダの取り付け方法.....	21

1.1 梱包内容／各部の名称と働き

本装置をお使いになる前に、梱包内容を確認してください。

1.1.1 梱包内容

本製品には、それぞれ以下のものが同梱されています。すべてそろっていることを確認してください。

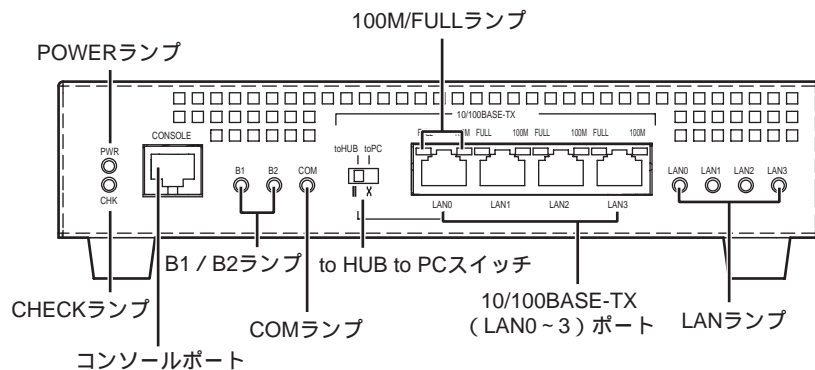


- BR500S本体 本装置のことです。
- 電源ケーブル 本装置とコンセントをつなぐケーブルです。
- コンソールケーブル RJ45をD-SUB9ピンに変換するストレートケーブルです。
- アダプタプラグ 本装置の3ピンの電源ケーブルを2穴のコンセントに差し込むためのアダプタです。
- ケーブルホルダ 電源ケーブルを本装置に固定するためのホルダです。

☛ 参照 「1.2 ケーブルホルダの取り付け方法」(P.21)

- CD-ROM CD-ROMの中には、取扱説明書(PDF形式)が入っています。ご覧になる場合は、PDF閲覧ソフトAdobe Readerが必要になります。
- ご使用になる前に ファームウェアのインストール方法、梱包内容などについて記載されています。

1.1.2 本装置 前面



- POWER ランプ 電源の状態を表示します。電源を投入すると緑色で点灯し、切断すると消灯します。
- CHECK ランプ 構成定義を書き込んでいる場合に、緑色で点滅します。異常な動作時は橙色で点灯します。弊社の技術員または弊社が認定した技術員に連絡してください。

こんな事に気をつけて

CHECK ランプが緑色で点滅しているとき、電源の切断およびリセットを行わないでください。構成定義が破壊される場合があります。

- コンソールポート コンソールポートです。同梱のコンソールケーブルと D-SUB9 ピンのクロスケーブルでパソコンと接続します。

参照 BR500S 仕様一覧「1.2 コンソールポート仕様」(P.8)

- B1/B2 ランプ ISDN ポートの状態を表示します。相手側との接続が完了して通信可能な状態になったとき、緑色で点灯します。通信が行われている間は緑色で点滅します。常時起動動作時に ISDN ポートでの通信が不可能な場合、橙色で点滅します。呼毎起動動作時は発信が失敗した場合と、ケーブル抜けなどによって通信が中断された場合にだけ、数秒間橙色で点滅します。どちらの場合もケーブルが正しく接続されていない、または極性反転している可能性があります。

⚠注意

B1/B2 ランプが緑色で点灯または点滅している場合、通信料金が加算されています。

- COM ランプ COM ポートの状態を表示します。通信できる状態では緑色で点灯し、通信が行われている（データがやり取りされている）間は緑色で点滅します。
- to HUB to PC スイッチ LAN0 ポートの接続先をパソコンまたは HUB に切り替える設定を行います。ご購入時は、「to HUB / ||」に設定されています。



LAN0 ポートに接続する機器	スイッチの設定
パソコン	to HUB to PC スイッチを「to PC / X」にします。
HUB (ご購入時の設定)	to HUB to PC スイッチを「to Hub / 」にします。

こんな事に気をつけて

LAN0 ポートに MDI モードを設定した場合でも、本スイッチの設定が優先されます。

- 100M/FULL ランプ 10/100BASE-TX ポートの通信速度／通信方式の状態または設定を表示します。
 参照 「100M/FULL ランプの詳細」(P.16)
 BR500S トラブルシューティング 「2.1 起動時の動作に関するトラブル」(P.9)
- 10/100BASE-TX (LAN0～3) ポート
 本装置を HUB と接続するときに使います (LAN0 は切り替えスイッチによって、LAN1～3 は構成定義によって、パソコンやワークステーションと接続することができます)。カテゴリ 5 の LAN ケーブルをここに差し込みます。
 参照 BR500S 仕様一覧 「1.5 10/100BASE-TX 相互接続」(P.11)
- LAN ランプ 10/100BASE-TX (LAN0～3) ポートの状態をそれぞれ表示します。
 正常な動作時は緑色で点灯し、通信が行われている (データがやり取りされている) 間は緑色で点滅します。
 異常な動作時は橙色で点滅します。ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。

100M/FULL ランプの詳細

100M/FULL ランプの動作の詳細について、以下に示します。

100M ランプは、通信速度 (消灯時：10Mbps、点灯時：100Mbps) の状態または設定を表示します。FULL ランプは、Duplex (消灯時：HALF (半二重)、点灯時：FULL (全二重)) の状態または設定を表示します。



Duplex (デュプレックス) は通信方式を示します。

本装置では HALF Duplex (半二重) と FULL Duplex (全二重) をサポートしています。

こんな事に気をつけて

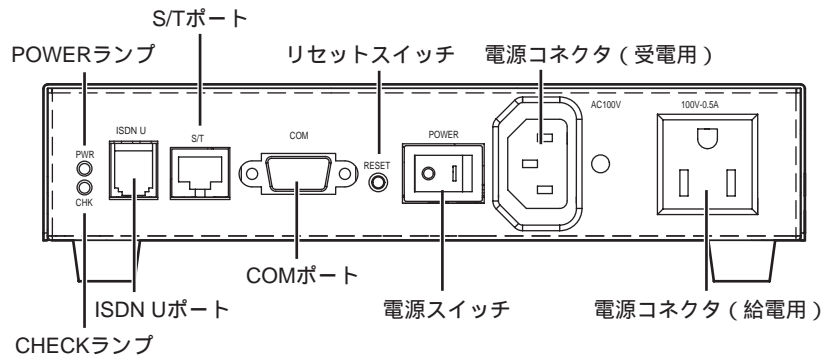
100M/FULL ランプは、リンク状態のときだけ状態を表示することができます。

インタフェースが定義されていない場合、またはリンク状態でない場合は、点灯しません。

通信モード		Auto-Nego / 固定
ランプ		
100M	消灯	装置前面の LAN ランプが緑色で点灯 (または緑色で点滅) 時は 10M でリンクしている
	緑色で点灯	装置前面の LAN ランプが緑色で点灯 (または緑色で点滅) 時は 100M でリンクしている
FULL	消灯	装置前面の LAN ランプが緑色で点灯 (または緑色で点滅) 時は HALF でリンクしている
	緑色で点灯	装置前面の LAN ランプが緑色で点灯 (または緑色で点滅) 時は FULL でリンクしている

参照 BR500S 仕様一覧 「1.5 10/100BASE-TX 相互接続」(P.11)

1.1.3 本装置背面



- POWER ランプ 電源の状態を表示します。電源を入れると緑色で点灯し、切断すると消灯します。
- CHECK ランプ 構成定義を書き込んでいる場合に、緑色で点滅します。異常な動作時は橙色で点灯します。弊社の技術員または弊社が認定した技術員に連絡してください。

こんな事に気をつけて

CHECK ランプが緑色で点滅しているとき、電源の切断およびリセットを行わないでください。構成定義が破壊される場合があります。

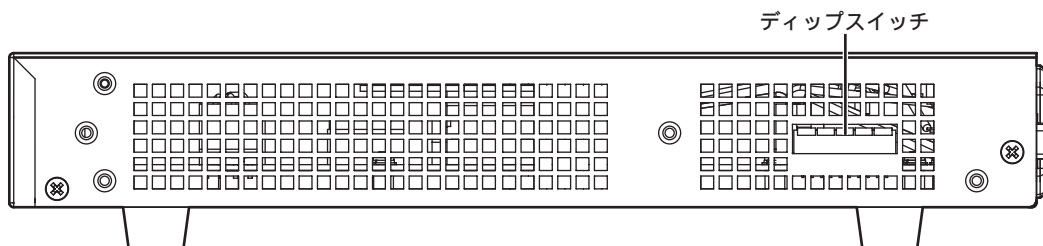
☛ 参照 BR500S トラブルシューティング「2.1 起動時の動作に関するトラブル」(P.9)

- ISDN U ポート ISDN 回線またはデジタル専用線に接続するときに使います。
- S/T ポート 本装置にデジタル回線用ファックスなどのISDN機器やTA (ターミナルアダプタ) をつなぐときに使います。ISDN 機器などにつないだモジュラケーブルをここに差し込みます。外付けDSUをつなぐときに使います。DSUにつないだモジュラケーブルをここに差し込みます。
- COM ポート DTE ポートです。D-SUB9ピンのストレートケーブルでモデムと接続します。

☛ 参照 BR500S 仕様一覧「1.3 COMポート仕様」(P.9)

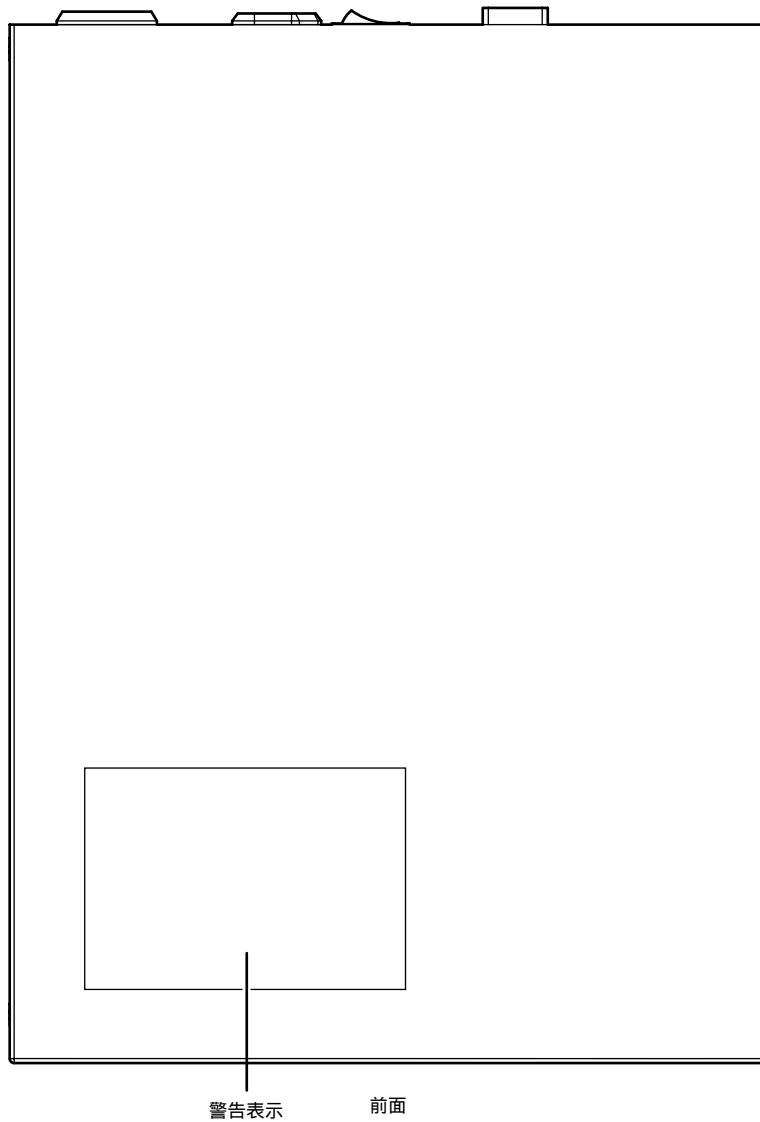
- リセットスイッチ スイッチを押すと、再起動します。
- 電源スイッチ 「|」側へ押すと、電源が入ります。「○」側へ押すと、電源が切れます。
- 電源コネクタ (受電用) 付属の電源ケーブルの先をここに差し込みます。
- 電源コネクタ (給電用) 本装置で受電した電源を供給するときに、モデムなどの電源ケーブルの先をここに差し込みます。電源コネクタ (給電用) で使用できる電流容量は、最大0.5Aです。

1.1.4 本装置 側面



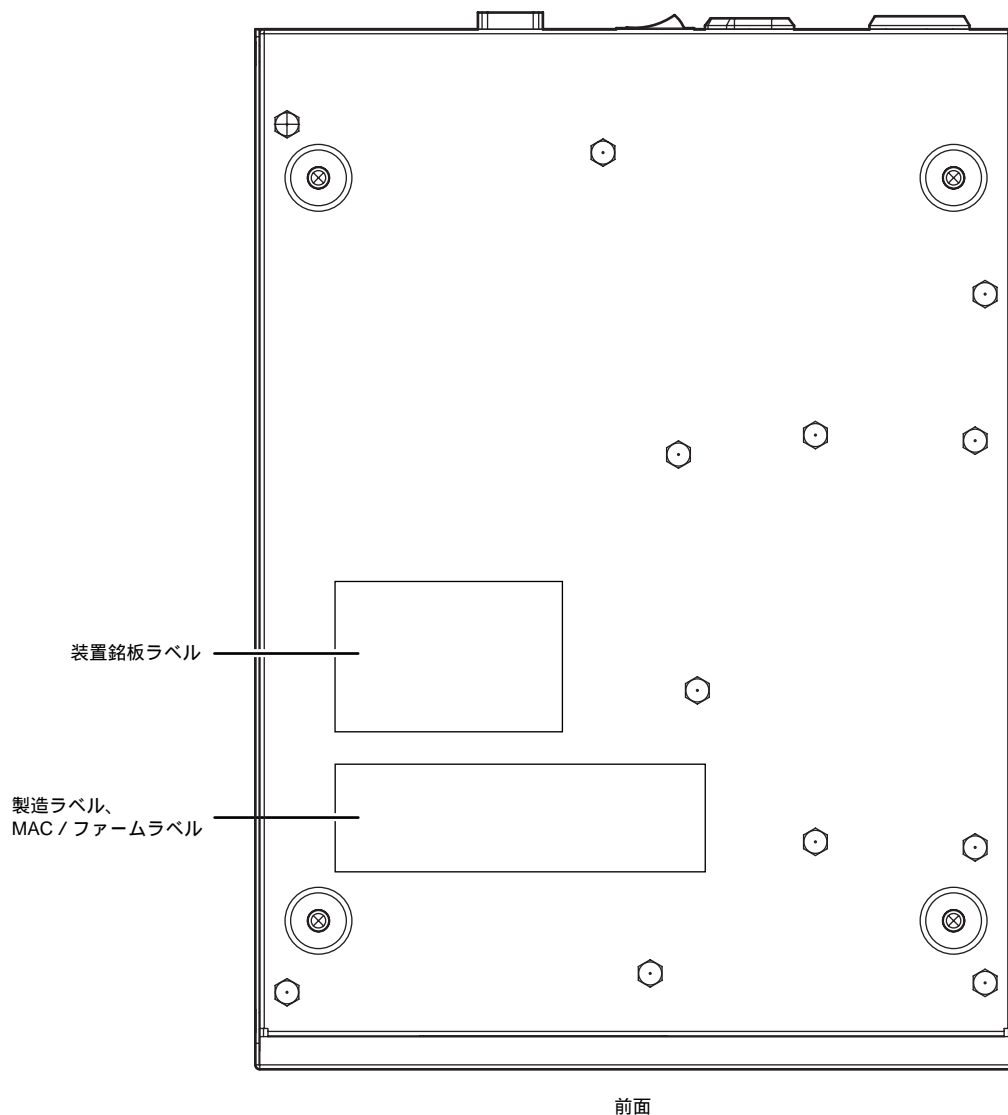
- ディップスイッチ 本簡易設定では使用しません。

1.1.5 本装置 上面



- 警告表示 本装置の取り扱い上、注意していただきたいことが記載されています。

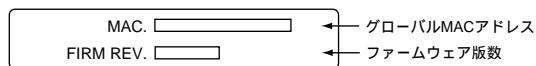
1.1.6 本装置 底面



- 装置銘板ラベル
- 製造ラベル
- MAC / ファームラベル

品名、型名、製造年月などが記載されています。

製造情報が記載されています。

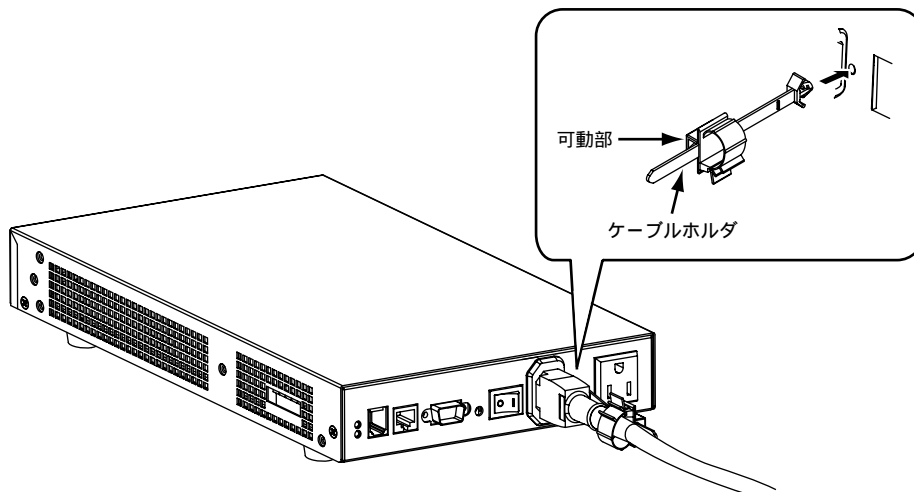


1.2 ケーブルホルダの取り付け方法

添付のケーブルホルダを使用することによって、電源ケーブルの抜けを防止できます。

以下に、ケーブルホルダの取り付け手順を示します。

1. ケーブルホルダを本装置に固定します。
2. ケーブルホルダの可動部を電源ケーブルのつけねに合わせて、電源ケーブルを固定します。



第2章 機器の設置



この章では、本装置の設置および設定用パソコンの接続について説明します。

2.1	設置環境を確認する.....	23
2.1.1	設置条件を確認する.....	23
2.1.2	設置スペースを確認する.....	24
2.2	設置する（ラック搭載時）.....	26
2.2.1	ラックに搭載する.....	27
2.3	設定用パソコンを接続する.....	29
2.3.1	LANで接続する.....	29
2.3.2	コンソールポートに接続する.....	37

2.1 設置環境を確認する

本装置では、以下の環境を確保して設置してください。

また、以下の確認を行ってください。

- 設置する前に、本装置およびオプションの梱包内容を、各製品に同梱の「ご使用になる前に」ですべてそろっているか確認する。
- 各インタフェースコネクタに接続するケーブルが、各インタフェースの用途に適合していることを確認する。

⚠注意

インタフェースコネクタには、適合する回線のコネクタ以外のものを絶対に差し込まないでください。
感電・故障の原因となります。

☞ 参照 「1.1.1 梱包内容」(P.14)

2.1.1 設置条件を確認する

以下の設置条件を守って設置してください。設置条件以外の環境で本装置を使用すると、故障の原因となります。

湿温度条件

	温度 (°C)	湿度 (%RH)
動作時	5 ~ 40	20 ~ 80
休止時	0 ~ 50	8 ~ 90

電源条件

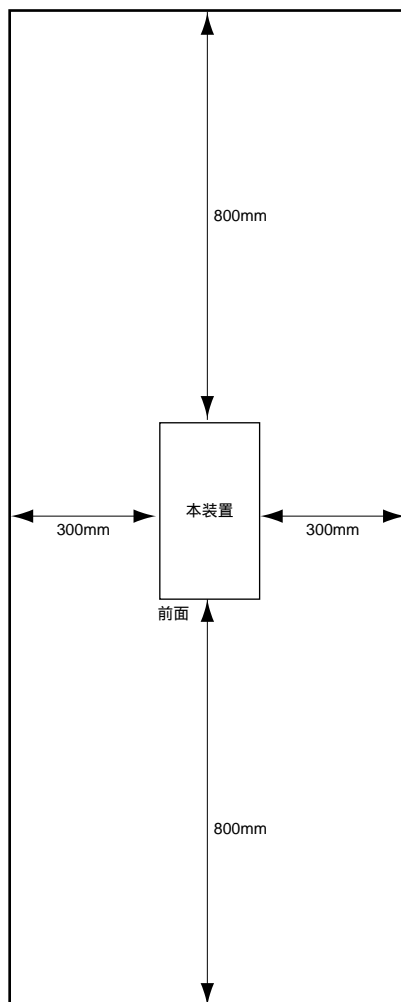
項目	条件
電圧	AC100V ±10%
周波数	50Hz / 60Hz +2%、-4%
アース	空調アース、建屋アースと同一でないこと、D種接地（第三種接地）以上
電力	供給電源は 15W 以上の容量を供給

2.1.2 設置スペースを確認する

本装置の設置および保守を行う場合は、以下のスペースを確保してください。

保守スペースを確保する

保守する場合は、以下の保守スペース（サービスエリア）を確保してください。



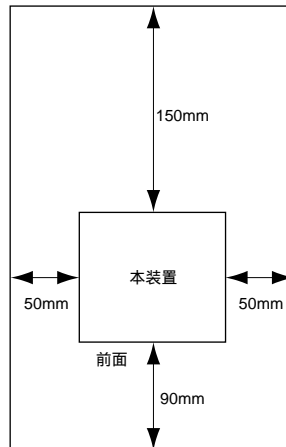
設置スペースを確保する

設置する場合は、以下の設置スペースを確保してください。

⚠注意

本装置を設置する場合は、以下の設置スペースを確保してください。故障の原因となります。

卓上に設置する



2.2 設置する（ラック搭載時）

本装置は、卓上またはラックに設置することができます。

ここでは、本装置をラックに搭載する方法について説明します。

設置する際は、安全に保守するために、前後のスペースを確保してください。

⚠注意

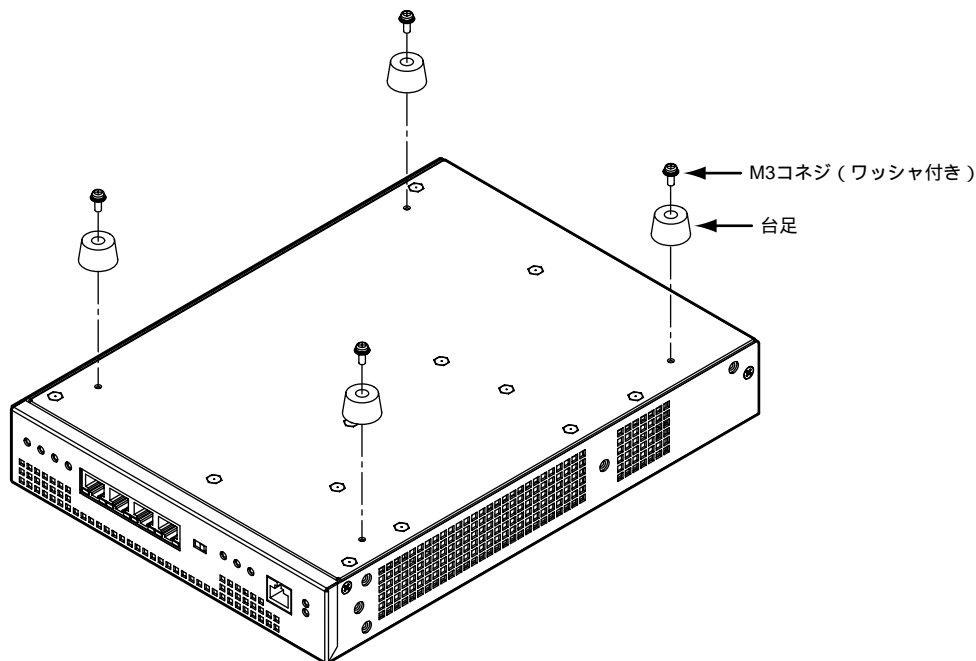
本装置の設置時は、必ず本装置の電源を切ってください。故障の原因となります。

台足を取り外す

本装置をラックに搭載する場合は、台足を取り外してから設置してください。それ以外の場合は、台足を取り外さないでください。

以下に、台足の取り外し手順を示します。

1. 本装置の上面と底面を逆にして平面上に置きます。
2. M3コネジ（ワッシャ付き）を外して、台足を取り外します。



2.2.1 ラックに搭載する

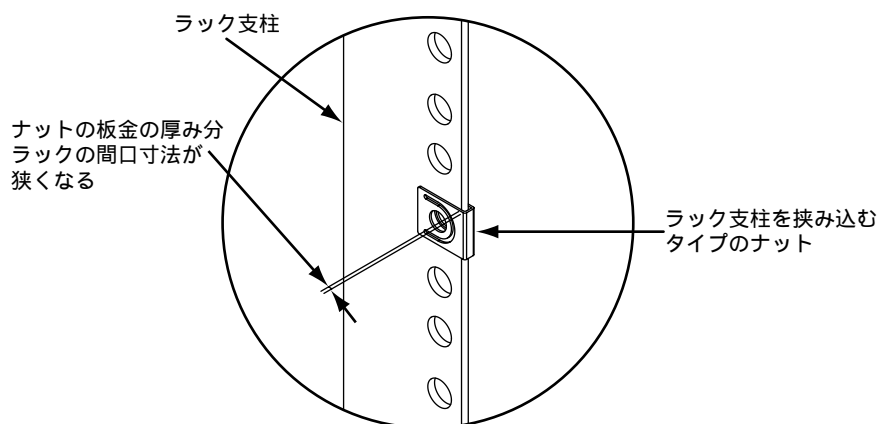
本装置は、ラックに搭載して運用することができます。

オプションのラック搭載機構を用意します。

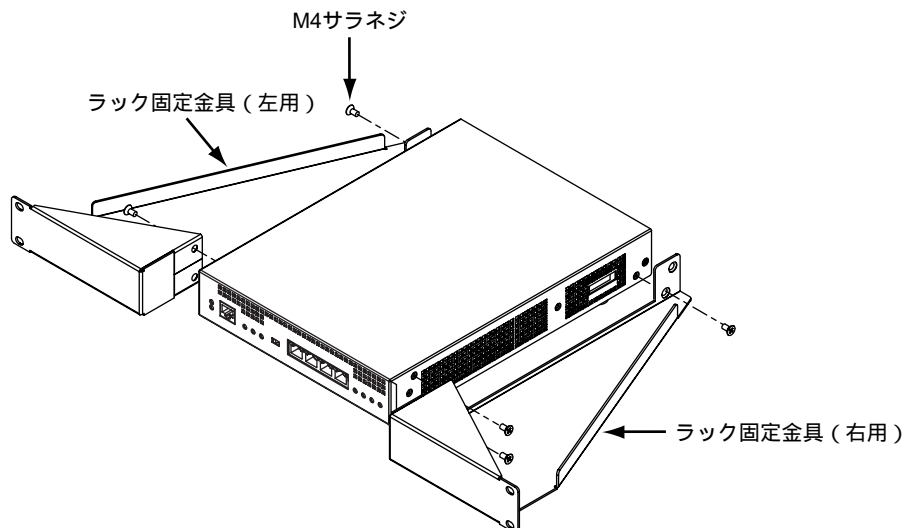
本装置を 1U スペースに 1 台搭載する手順を、以下に示します。

こんな事に気をつけて

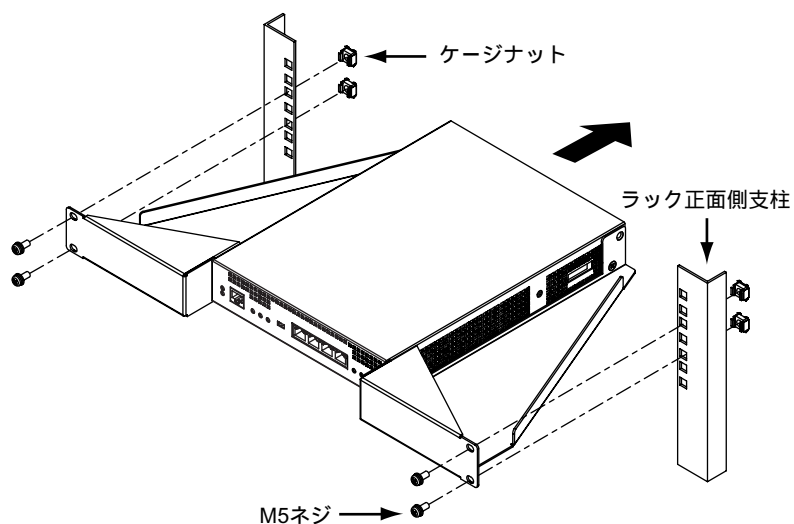
- ・ ラック搭載時は、本装置の台足を取り外してください。
 - ・ ラックおよびラックの支柱の穴の形状により、同梱のネジおよびケージナットが使用できないことがあります。そのときは、ラックに合った固定用のネジおよびナットを用意してください。
- その際、以下に示すような、ラックの支柱をはさみ込むタイプのナットを使用すると、ラックの間口を狭めてしまうため、本装置が搭載できなくなる場合があります。ナットの選定には、注意してください。



1. 本装置にラック固定金具（右用、左用）を M4 サラネジで固定します。



2. 手順 1. で本装置に取り付けたラック固定金具を、ラック正面側支柱の内側からケージナット、外側から M5 ネジで固定します。



2.3 設定用パソコンを接続する

設定用パソコンを本装置に接続します。

2.3.1 LANで接続する

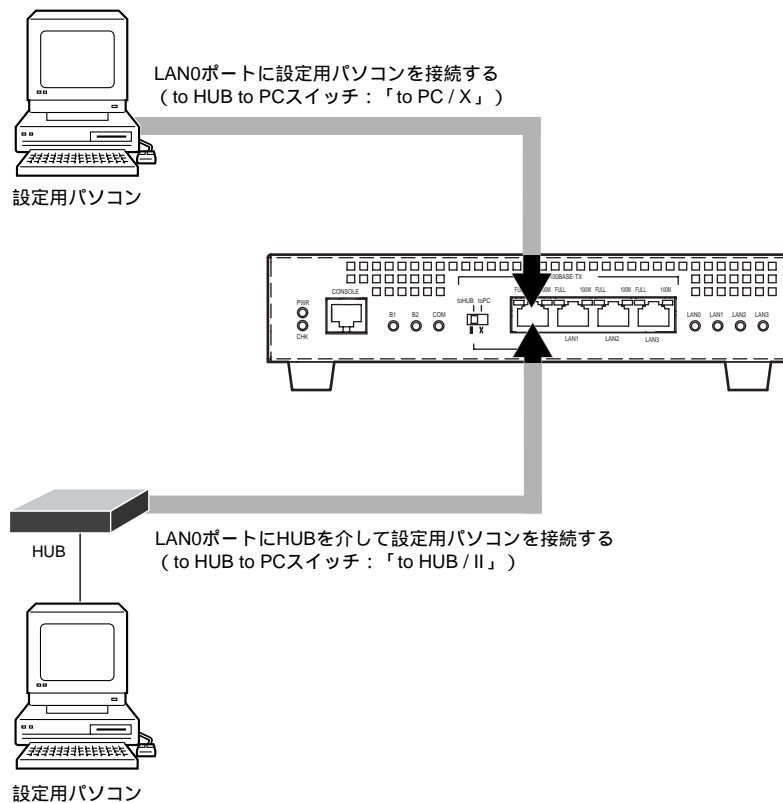
必要なハードウェア／ソフトウェア

本装置を接続するために、以下のハードウェアとソフトウェアを用意します。

- パソコン
設定用のパソコンが1台必要です。
- LANカード
設定用のパソコンにLANカードが装着されている必要があります。パソコンにLANポートがある場合は、LANカードを装着する必要はありません。
- LANケーブル
本装置および設定用のパソコンをつなぐLANケーブルが必要です。
- TCP/IPソフトウェア
telnetが使用できるオペレーティングシステムが必要です。

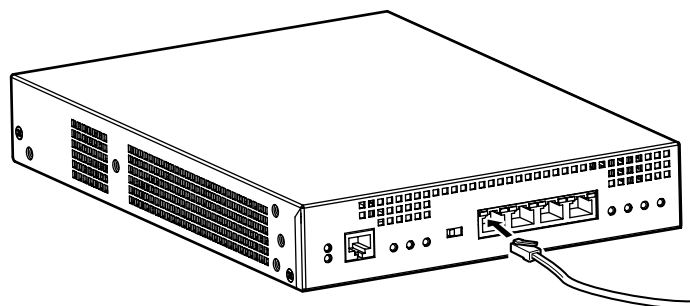
LAN ケーブルを接続する

LAN ケーブルは、本装置を設定用パソコンまたは HUB につなぐためのケーブルです。両端に 8 ピンのモジュラプラグがついています。パソコンなどの端末を接続する場合はストレートケーブルを、HUB に接続する場合は HUB の仕様によってストレートケーブルまたはクロスケーブルを使用してください。



設定用パソコンと本装置を LAN ケーブル (ストレート) で直接つなぐ手順を説明します。

1. パソコンと本装置の電源が切れていることを確認します。
2. パソコンの 10/100BASE-TX ポートに LAN ケーブルの一方の端を差し込みます。
3. 本装置前面にある to HUB to PC スイッチ (LAN0) が 「to PC」 であることを確認します。
4. 本装置の LAN0 ポートに LAN ケーブルのもう一方の端を差し込みます。



こんな事に気をつけて

ご購入時は、LAN0 ポートからだけ設定できます。

電源を投入する

1. ケーブルが正しくつながれていることを確認します。
2. 電源スイッチを「|」側へ押して、本装置の電源を投入します。
本装置前面の POWER ランプが緑色で点灯します。
3. 本装置が起動したことを確認します。



電源が入ると、本装置は自動的に装置の状態を診断します。

このとき、POWER ランプ以外が点滅します。装置に異常がない場合は、CHECK ランプが消灯して、起動が完了します。

4. パソコンの電源を投入します。

設定用パソコンを準備する

ここでは、Windows[®] 2000 および Windows[®] XP のパソコンを設定する手順について説明します。

ほかの OS をお使いの場合は、パソコンまたは OS をご購入時に同梱のマニュアルを参照してください。

Windows デスクトップの設定で「Web スタイル」を指定してある場合は、「ダブルクリック」と記載してあるところは「シングルクリック」で操作することができます。

パソコンを設定する

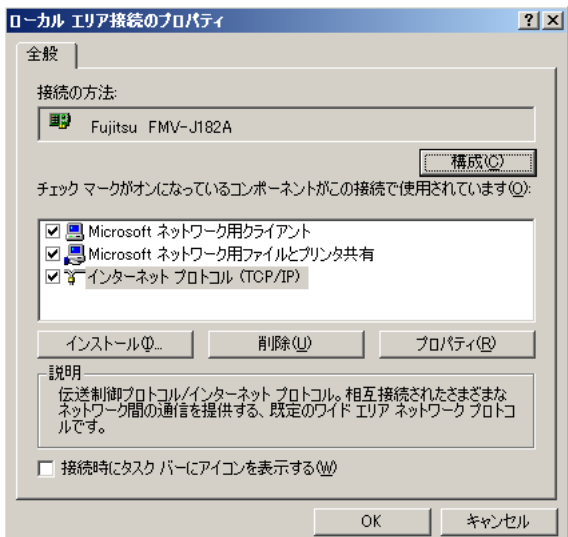
● Windows[®] 2000 の場合

1. [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックします。
2. [ネットワークとダイヤルアップ接続] をダブルクリックして開きます。
3. [ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
[ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
4. 一覧にインターネットプロトコル (TCP/IP) が存在していることを確認します。



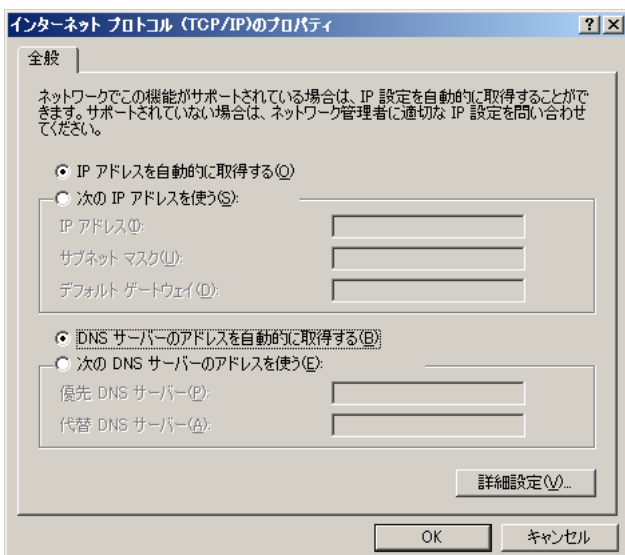
一覧に TCP/IP が見つからない場合は、TCP/IP のインストールが必要です。Windows[®] 2000 のマニュアルを参照して、インストールしてください。

5. 一覧から「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択します。



6. [プロパティ] ボタンをクリックします。

[インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。



7. パソコンの IP アドレスを指定します。

「次の IP アドレスを使う」を選択します。

IP アドレスを「192.168.1.2」、サブネットマスクを「255.255.255.0」、デフォルトゲートウェイを「192.168.1.1」に指定します。

8. DNS サーバの IP アドレスを設定します。

「次の DNS サーバのアドレスを使う」を選択します。

「優先 DNS サーバ」に本装置の IP アドレス「192.168.1.1」を指定します。

9. [OK] ボタンをクリックします。

[ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログボックスに戻ります。

10. [OK] ボタンをクリックします。

パソコンを再起動するかを確認するメッセージが表示されます。

11. [はい] ボタンをクリックし、パソコンを再起動します。

設定した内容は、再起動後に有効になります。

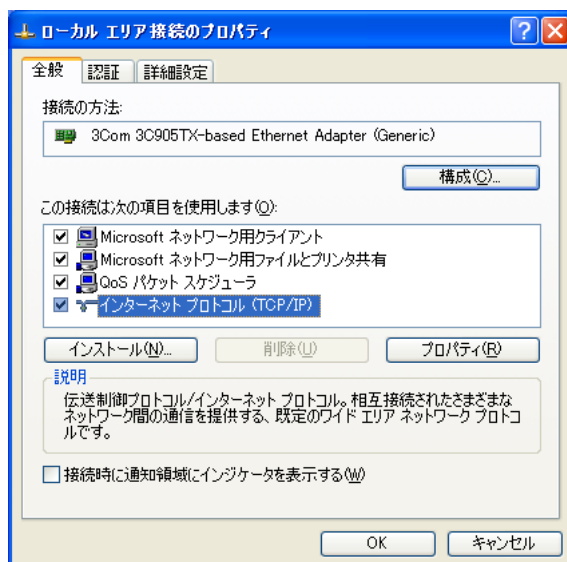
● Windows® XPの場合

1. [スタート] – [コントロールパネル] をクリックします。
2. [ネットワーク接続とインターネット接続] をクリックします。
3. [ネットワーク接続] をクリックします。
4. [ローカルエリア接続] アイコンを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
[ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
5. 一覧にインターネットプロトコル (TCP/IP) が含まれていることを確認します。



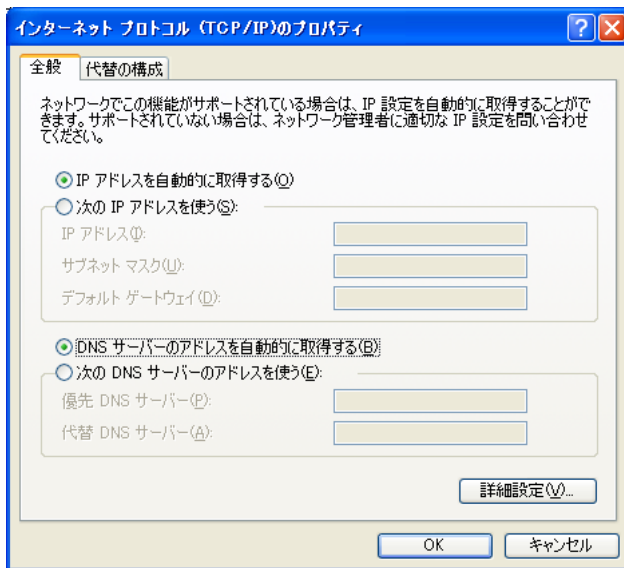
一覧にTCP/IPが見つからない場合は、TCP/IPのインストールが必要です。Windows® XPのマニュアルを参照して、インストールしてください。

6. 一覧から「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択します。



7. [プロパティ] ボタンをクリックします。

[インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。



8. パソコンの IP アドレスを指定します。

「次の IP アドレスを使う」を選択します。

IP アドレスを「192.168.1.2」、サブネットマスクを「255.255.255.0」、デフォルトゲートウェイを「192.168.1.1」に指定します。

9. DNS サーバの IP アドレスを設定します。

「次の DNS サーバーのアドレスを使う」を選択します。

「優先 DNS サーバー」に本装置の IP アドレス「192.168.1.1」を指定します。

10. [OK] ボタンをクリックします。

[ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログボックスに戻ります。

11. [OK] ボタンをクリックします。

パソコンを再起動するかを確認するメッセージが表示されます。

12. [はい] ボタンをクリックし、パソコンを再起動します。

設定した内容は、再起動後に有効になります。



IP アドレスなどの設定を確認する

Windows® 95 / 98 / Me には、IP アドレスやアダプタアドレス (MAC アドレス) など現在の IP 設定情報を確認できるコマンドがあります。以下のように操作します。

1. [スタート] - [ファイル名を指定して実行] を選択します。
2. 「winipcfg.exe」を指定します。

Windows NT®, Windows® 2000 / XP の場合は「ipconfig.exe」で確認できます。

telnetでログオンする

設定用のパソコンがWindows®の場合は、以下のように操作します。

1. [スタート] - [ファイル名を指定して実行] を選択します。
2. 「telnet (本装置のIPアドレス)」を指定します。

こんな事に気をつけて

- 5分間（ご購入時の状態）、入力がないとtelnetが切断されます。
- [Return] キーまたは [Enter] キーを押したとき、以下のメッセージが表示され、処理に時間がかかることがあります。このとき、本装置ではほかの処理が行われており、その処理の終了待ちの状態です。少しの間お待ちください。
Waiting for completion of the other operation...

2.3.2 コンソールポートに接続する

必要なハードウェア／ソフトウェア

本装置を接続するために、以下のハードウェアとソフトウェアを用意します。

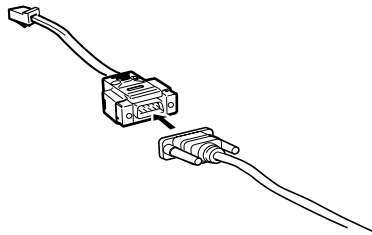
- パソコン
設定用のパソコンが1台必要です。
- RS232Cケーブル
本装置と設定用のパソコンをつなぐRS232Cケーブルが必要です。また、接続する際に、本製品に同梱のコンソールケーブルも使用します。

☛ 参照 BR500S 仕様一覧「1.2 コンソールポート仕様」(P.8)

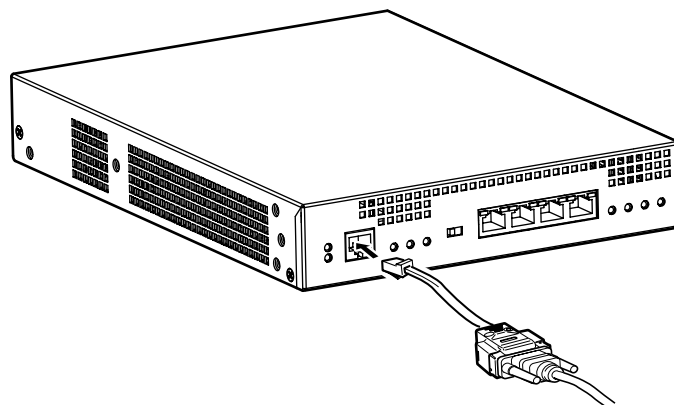
- 通信ソフトウェア
ターミナルソフトウェアが必要です。

RS232Cケーブルを接続する

1. パソコンと本装置の電源が切れていることを確認します。
2. RS232Cケーブルと同梱のコンソールケーブルを接続します。



3. 本装置のコンソールポートにコンソールケーブルのRJ45プラグを差し込みます。

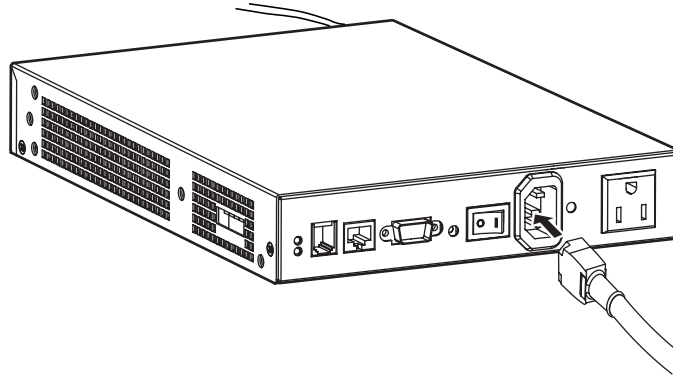


電源ケーブルを接続する

⚠ 警告

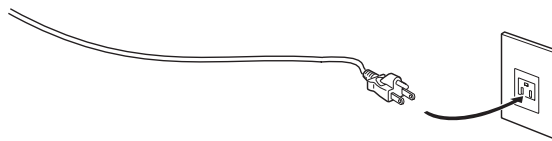
本装置の電源スイッチが「○」側へ押されていることを確認してから、電源コンセントに差し込んでください。

1. 本体背面に電源ケーブルを差し込みます。



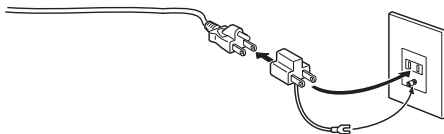
同梱のケーブルホルダを使用することにより、電源ケーブルの抜けを防止することができます。

2. 電源ケーブルをコンセントにつなぎます。



電源ケーブルを2穴のコンセントに差し込む場合は、以下の手順でつないでください。

1. 電源ケーブルをアダプタプラグにつなぎます。
2. アダプタプラグのアース線をコンセントのアース端子につなぎます。
アダプタプラグをコンセントにつなぎます。



⚠ 警告

アダプタプラグをコンセントにつなぐ前に、必ずアース線を接続してください。

電源を投入する

1. ケーブルが正しくつながれていることを確認します。
2. 電源スイッチを「|」側へ押し、本装置の電源を投入します。
本装置前面の POWER ランプが緑色で点灯します。
3. 本装置が起動したことを確認します。



電源が入ると、本装置は自動的に装置の状態を診断します。

このとき、POWER ランプ以外が点滅します。装置に異常がない場合は、CHECK ランプが消灯して、起動が完了します。

4. パソコンの電源を投入します。

設定用パソコンを準備する

ターミナルソフトウェアでログオンする

1. 設定用のパソコンでターミナルソフトウェアを起動します。
2. 設定条件を以下のように設定します。

項目	設定値
スタート Bit	1
データ Bit	8
パリティ Bit	なし
ストップ Bit	1
同期方式	非同期
通信速度	9600
フロー制御	なし
画面桁数	80 (80桁以外の場合、env コマンドで指示)
画面行数	24 (24行以外の場合、env コマンドで指示)
漢字コード	ShiftJIS (EUCの場合、env コマンドで指示)

設定条件の設定方法については、ターミナルソフトウェアのマニュアルを参照してください。

3. [Return] キーまたは [Enter] キーを押します。

こんな事に気をつけて

[Return] キーまたは [Enter] キーを押したとき、以下のメッセージが表示され、処理に時間がかかることがあります。このとき、本装置ではほかの処理が行われており、その処理の終了待ちの状態です。少しの間お待ちください。
Waiting for completion of the other operation...

4. 画面に「>」と表示されたことを確認します。
5. logon と入力して、[Return] キーまたは [Enter] キーを押します。
6. 画面に「Password:」が表示されたことを確認します。

7. パスワードを入力して、[Return] キーまたは [Enter] キーを押します。

初期状態ではパスワードが設定されていないので、何も入力しないで [Return] キーまたは [Enter] キーを押します。

パスワードを設定している場合は、設定したパスワードを入力してから [Return] キーまたは [Enter] キーを押します。

8. 画面に「#」と表示されたことを確認します。

パスワードが間違っている場合は、「Invalid password.」と表示され、再び「>」が表示されますので、5. からやり直してください。

第3章 設定の準備



この章では、WWWブラウザで本装置を設定するための準備を説明します。

3.1	WWWブラウザを準備する	42
3.2	WWWブラウザを起動して本装置のトップページを表示させる	44
3.3	パスワードを設定する	45
3.3.1	ログインパスワードを入力する	46
3.4	時計を設定する	47
3.5	文字入力フィールドで入力できる文字一覧	48

3.1 WWWブラウザを準備する

本装置を利用するには、以下のWWWブラウザを使用してください。

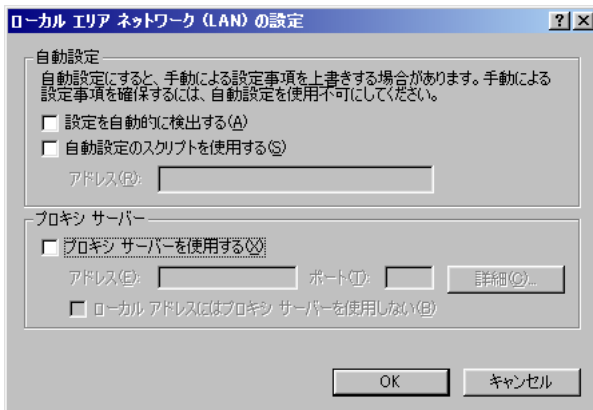
- Microsoft® Internet Explorer Version 5.5
- Microsoft® Internet Explorer Version 6.0
- Netscape Communicator Version 4.78
- Netscape Version 7.1

ブラウザの設定が、「Proxy (プロキシ) サーバ機能」を利用しないようになっていることを確認してください。

Microsoft® Internet Explorer 5.5

Microsoft® Internet Explorer 5.5 の場合は、以下のように確認します。

1. Microsoft® Internet Explorer を起動します。
2. メニューバーの [ツール] をクリックし、「インターネットオプション」をクリックします。
3. インターネットオプション画面の「接続」タブで、LANの設定の [LANの設定] ボタンをクリックします。
4. 「プロキシサーバーを使用する」が選択されていないことを確認します。

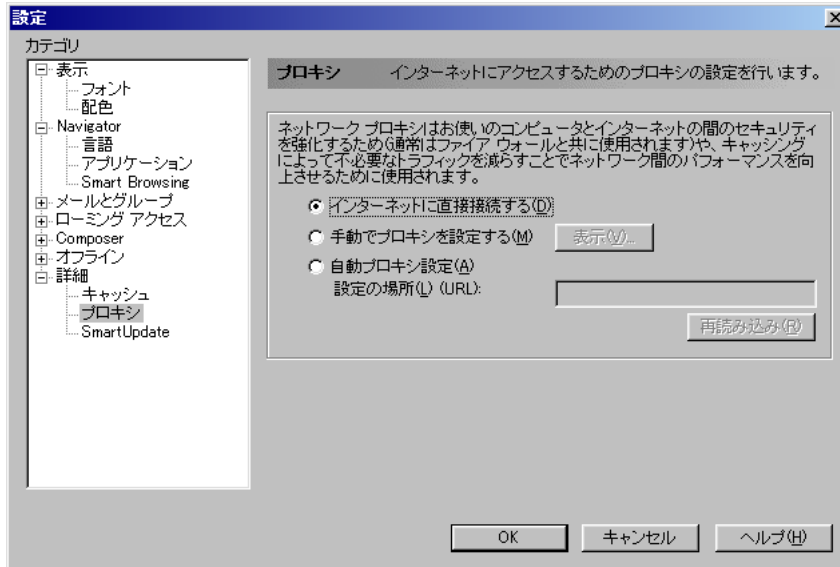


Netscape Communicator 4.7

Netscape Communicator 4.7 の場合は、以下のように確認します。

1. Netscape Communicator を起動します。
2. メニューバーの [編集] をクリックし、「設定」をクリックします。
3. 設定画面の「カテゴリ」で「詳細ープロキシ」を選択します。

4. 「インターネットに直接接続する」が選択されていることを確認します。



こんな事に気をつけて

すでにWindows[®] 95 / 98 / Meの「ダイヤルアップネットワーク」でモデムやTAをお使いの場合は、ブラウザ起動時の設定を以下のように変更してください。

1. 【コントロールパネル】 - 【インターネットオプション】 - 【インターネットのプロパティ】 - 【接続】 タブの順に選択して、「接続タブ」を表示します。
2. ダイヤルアップの設定で【ダイヤルしない】を選択します。
3. 【OK】 ボタンをクリックします。



Proxy サーバを使用する場合は、下記を参考にして本装置だけをProxyの対象外にしてください。

Microsoft[®] Internet Explorer 5.5 の場合は、以下のように設定します。

1. Microsoft[®] Internet Explorer を起動します。
2. メニューバーの【ツール】 をクリックし、「インターネットオプション」 をクリックします。
3. インターネットオプション画面の「接続」タブで、LAN の設定の【LAN の設定】 ボタンをクリックします。
4. プロキシサーバーの「プロキシサーバーを使用する」が選択されていることを確認し、【詳細】 ボタンをクリックします。
5. 【HTTP】 にプロバイダのProxy サーバを指定します。
6. 例外の「次で始まるアドレスにはプロキシを使用しない」に本装置のIPアドレス（192.168.1.1）を指定します。

Netscape Communicator 4.7 の場合は、以下のように設定します。

1. Netscape Communicator を起動します。
2. メニューバーの【編集】 をクリックし、「設定」 をクリックします。
3. 設定画面の「カテゴリ」で「詳細 - プロキシ」を選択します。
4. 「手動でプロキシを設定する」を選択し、【表示】 ボタンをクリックします。
5. 【HTTP】 にプロバイダのProxy サーバを指定します。
6. 例外の「次ではじまるドメインにはプロキシサーバーを使用しない」に本装置のIPアドレス（192.168.1.1）を指定します。

3.2 WWWブラウザを起動して本装置のトップページを表示させる

☛ 参照 [3.1 WWWブラウザを準備する] (P.42)

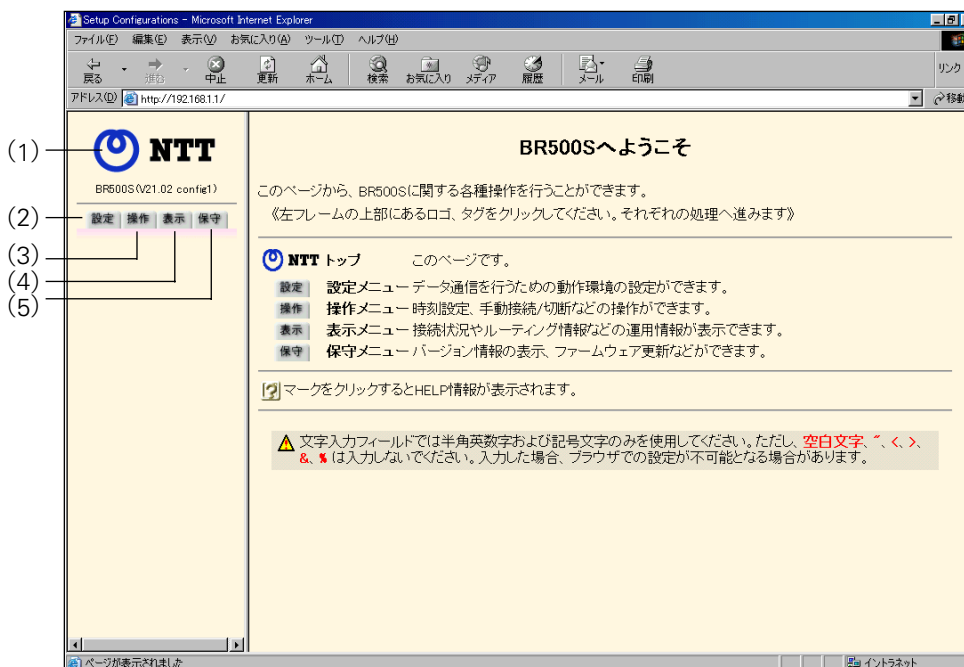
こんな事に気をつけて

本装置では、必ずパスワードを設定してください。トップページアクセス時にパスワードが設定されていない場合は、パスワード情報の設定画面が表示されます。

☛ 参照 [3.3 パスワードを設定する] (P.45)

1. WWWブラウザを起動します。
2. 本装置のURL [http://192.168.1.1/] を指定します。

本装置のトップページが表示されます。



画面左側に表示されるタブをクリックすると、ブラウザの表示が変わります。

- (1) 本装置ロゴ : クリックすると、トップページが表示されます。
- (2) [設定] タブ : クリックすると、[かんたん設定メニュー] ボタンと [詳細設定メニュー] ボタンが表示されます。
- (3) [操作] タブ : クリックすると、操作メニューが表示されます。
- (4) [表示] タブ : クリックすると、表示メニューが表示されます。
- (5) [保守] タブ : クリックすると、保守メニューが表示されます。

☛ 参照 BR500S Web ユーザーズガイド [2.1 操作メニューを使う] (P.17)、[2.2 表示メニューを使う] (P.23)、[2.3 保守メニューを使う] (P.96)

3.3 パスワードを設定する

本装置では、必ずパスワードを設定してください。

パスワードを設定すると、WWW ブラウザ画面からの設定／コンソール、telnet からのログオン／FTPサーバ機能使用時に、パスワード入力によってログオンを制限することができます。

パスワードを設定する場合の例を示します。

1. 設定メニューの基本設定で「パスワード情報」をクリックします。

「パスワード情報」ページが表示されます。

2. 以下の項目を指定します。

- 管理者パスワード → himitu (お客様の情報)
- 管理者パスワードの確認 → himitu (お客様の情報)

■パスワード情報		?
管理者パスワード	<input type="password" value="*****"/>	
管理者パスワードの確認	<input type="password" value="*****"/>	
ユーザパスワード	<input type="password"/>	
ユーザパスワードの確認	<input type="password"/>	
パスワード入力	操作メニュー	<input checked="" type="radio"/> 管理者のみ <input type="radio"/> 管理者とユーザ <input type="radio"/> 不要
	表示メニュー	<input checked="" type="radio"/> 管理者のみ <input type="radio"/> 管理者とユーザ <input type="radio"/> 不要
	保守メニュー	<input checked="" type="radio"/> 管理者のみ <input type="radio"/> 管理者とユーザ <input type="radio"/> 不要

3. [更新] ボタンをクリックします。

トップページが表示されます。

3.3.1 ログインパスワードを入力する

パスワードを設定後、定期的に以下のパスワードの確認画面が表示されます。

処理を続行するためにはログインパスワードの入力が必要です。
ログインパスワードを入力してください

ログインパスワード

工事保守者は、以下の工事保守者用パスワードを入力します。

パスワード : ohfUK0n@

(オー・エイチ・エフ・ユー (大文字)・ケイ (大文字)・ゼロ (数字)・エヌ・アットマーク (記号))

こんな事に気をつけて

- ・ 本装置設定終了後は、工事保守者用パスワードによる認証を無効にするために、必ず「詳細設定メニュー」の【編集終了】ボタンをクリックするか、本装置を再起動してください。
- ・ 「CE保守ログイン」を“許可しない”に設定すると、工事保守者パスワードが使用できなくなります。この場合は、お客様の管理者パスワードで一度ログインしたあと、「CE保守ログイン」の設定を“許可する”に変更して、作業を続行してください。

☛ 参照 BR500S Web リファレンス「10.6 異常時動作情報」(P.29)

💡 ヒント

◆ 工事保守者用パスワード、管理者パスワード、ユーザパスワードの違いとは？

パスワードは、装置を使用する人によって、入力するパスワードが異なります。

パスワードの種類について、以下に説明します。

- ・ 工事保守者用パスワード : 弊社の工事保守者が本装置を設定する場合に使用するパスワードです。工事保守者は、すべての設定、操作を行うことができます。本装置を設定する場合は、必ず本パスワードを使用して設定してください。
- ・ 管理者パスワード : お客様が本装置の管理、設定を行う場合に使用するパスワードです。本装置を使用する場合、管理者パスワードは必ず設定してください。管理者は、ユーザパスワードの使用範囲を設定することができます。
- ・ ユーザパスワード : お客様が本装置の操作、表示、保守を行う場合に使用するパスワードです。使用範囲は、管理者によって設定されます。

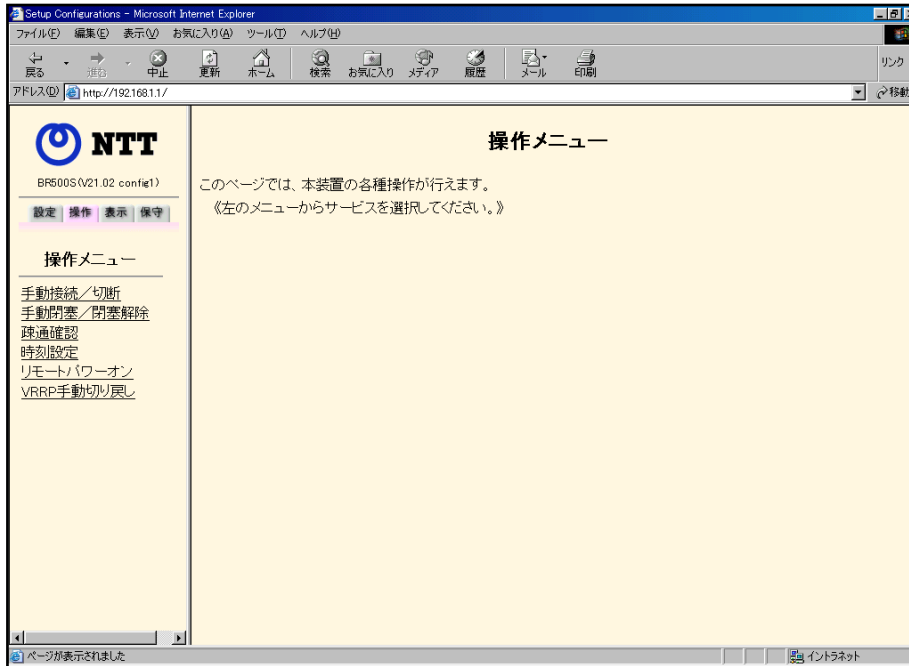
3.4 時計を設定する

本装置を設定する前に、必ず時計の設定を行ってください。
操作メニューを使って、本装置の内部時計の時刻を設定します。

こんな事に気をつけて 72時間以上電源を切ったままにしておくと、時刻情報が失われます。

1. 本装置のトップページで、画面左側の【操作】タブをクリックします。

操作メニューが表示されます。



2. 操作メニューで「時刻設定」をクリックします。

「時刻情報設定」ページが表示されます。

【時刻情報設定】

このページでは、本装置の時刻合わせを行うことができます。設定方法を選択し設定ボタンを押してください。

⚠ 72時間以上、電源を切ったままにすると時刻情報が失われます。

■時刻の設定

パソコンから時刻を取得	パソコンの現在時刻 2007年12月10日16時8分33秒	設定
タイムサーバから時刻を取得	サーバアドレス DHCPで自動設定されています	設定
任意の時刻を設定	2007年12月10日15時58分34秒	設定

3. 時計を設定する方法を以下の3つの中から選択します。

- パソコンから時刻を取得 → WWW ブラウザを利用しているパソコンの時刻を取得する
- タイムサーバから時刻を取得 → ネットワーク上の TIME サーバまたは SNTP サーバから時刻を取得する
- 任意の時刻を設定 → 現在の日時を入力する

4. 指定する時刻の設定方法の【設定】ボタンをクリックします。

「時刻を〇〇〇〇に設定しました。」というメッセージが表示されます。

3.5 文字入力フィールドで入力できる文字一覧

	+0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	+8	+9	+A	+B	+C	+D	+E	+F
20		!		#	\$	%(注)	&(注)	'	()	*	+	,	-	.	/
30	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<(注)	=	>(注)	?
40	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
50	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[¥(注)]	^	_
60	`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
70	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	(注)	

注) ご使用のキーボードによって、「¥」の代わりに「\」、「|」の代わりに「~」を入力してください。ご使用のターミナルソフトウェアやWebブラウザによって、「¥」の代わりに「\」、「|」の代わりに「~」が表示される場合があります。

Webブラウザでの設定時に、文字入力フィールドに空白文字、「|」、「<」、「>」、「&」、「%」の文字を入力しないでください。これらの文字を入力した場合、Webブラウザで設定できなくなります。

コマンドでの設定時には、「<」、「>」、「&」、「%」の文字は入力できますが、Webブラウザでの設定ができなくなります。Webブラウザで設定を行う場合は、これらの文字を使用しないようにコマンドで設定を変更してください。また、Webブラウザで設定を行う場合は、空白文字を使用しないようにコマンドで設定を変更してください。

第4章 B フレッツサービスの の設定例



この章では、B フレッツ回線上で法人向けIP 電話サービス、インターネット、フレッツ・グループアクセスを利用する場合を例に、WWWブラウザを利用した設定手順について説明します。

設定例で使用されているIPアドレスなどの値は、一例を示しています。

実際の設定値は、お客さまのネットワーク環境、各ネットワークサービスのサービスオーダー、サービス知識マニュアルなどに従って指定してください。

(NTT 西日本エリアでは、「フレッツ・グループアクセス」を「フレッツ・グループ」に読み替えてください。)

4.1	接続構成例	50
4.1.1	利用形態	50
4.1.2	物理接続構成	51
4.1.3	ネットワーク接続構成	52
4.2	IP 電話サービスの設定	53
4.3	フレッツ・グループアクセスの設定	59
4.4	IPv6 サービスの設定	64
4.5	インターネット (ISP) 接続の設定	68
4.6	PPPoE ブリッジの設定	71

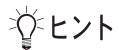
4.1 接続構成例

ここでは、B フレッツ回線上で法人向けIP電話サービス、インターネット、フレッツ・グループアクセスサービスを利用する場合を例に、利用形態、物理接続構成およびネットワーク接続構成について説明します。

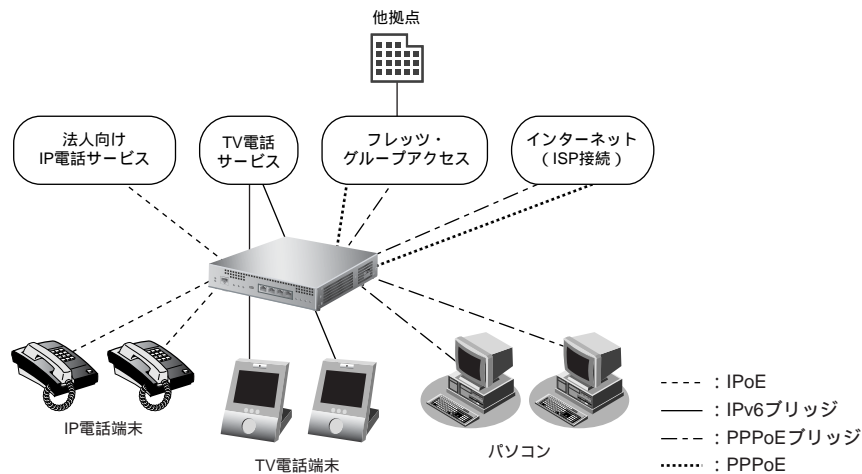
4.1.1 利用形態

この例が適用されるサービスの利用形態は、以下のとおりです。

- 法人向けIP電話サービス
- フレッツ・グループアクセス (LAN型払い出し)
- IPv6 サービス
- インターネット接続 (ISP 接続)

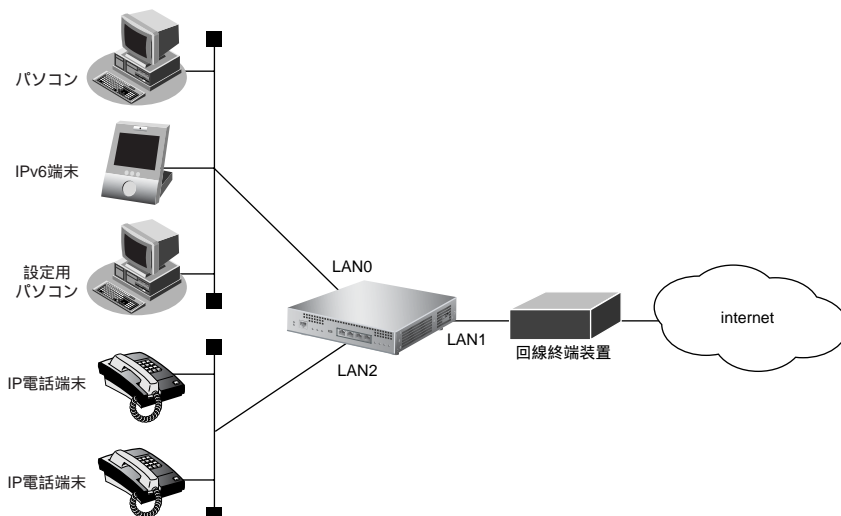


フレッツ・グループアクセスおよびインターネット接続には、本装置から PPPoE 接続を行う形態と、本装置は PPPoE ブリッジとして動作してパソコンから PPPoE 接続を行う形態とがあります。



4.1.2 物理接続構成

フレッツが適用されるサービスの物理接続構成例を、以下に示します。



● 設定条件

- すべての LAN ポートは、100BASE-TX を使用する
- LAN0～2 ポートは、自動認識（オートネゴシエーション）で使用する

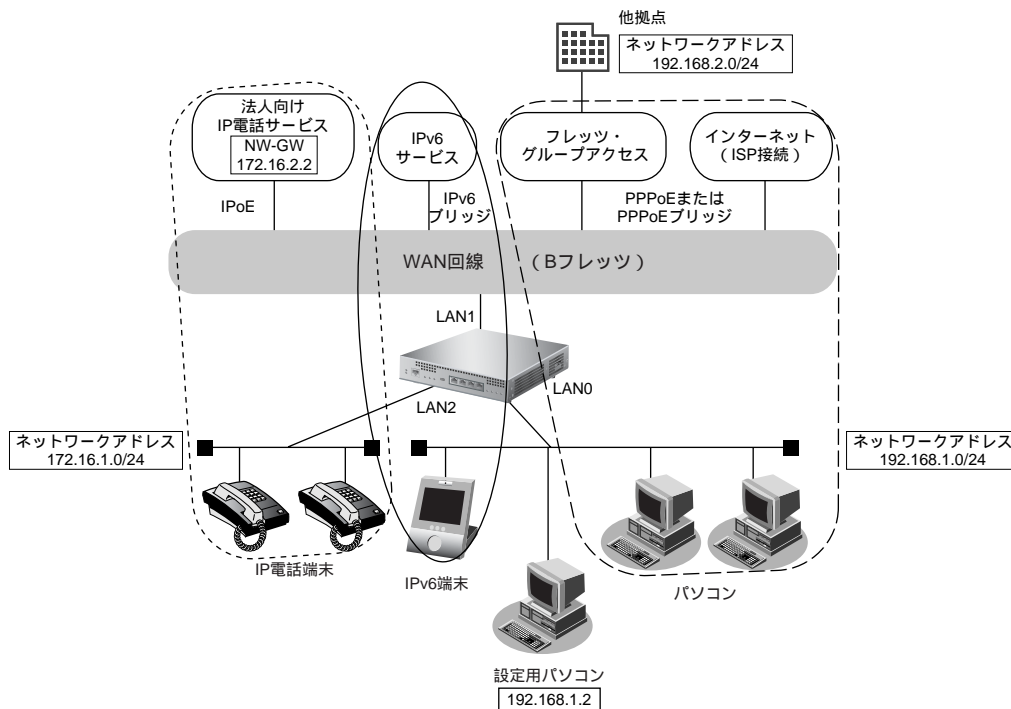
こんな事に気をつけて

- 法人向け IP 電話サービスを利用するときは、WAN 回線として使用するポート、IP 電話端末を接続するポートが、100Mbps、FULL（全二重）モードでリンクすることを確認してください。HALF（半二重）モードのまま使用すると、IP 電話で正常な通信ができないことがあります。
- 一方の機器の LAN ポートがオートネゴシエーションで、他方が FULL（全二重）固定の状態で接続すると、通常モードを HALF（半二重）と認識されます。この場合、エラー率が高いなど正常な通信ができないことがありますので、両方の機器の通信モードを FULL（全二重）固定に設定してください。
- 一方の機器が、オートネゴシエーションのみサポートしているときは、両方の機器をオートネゴシエーションに設定し、100Mbps、FULL（全二重）モードでリンクすることを確認してから使用してください。

☛ 参照 「100M/FULL ランプの詳細」(P.16)

4.1.3 ネットワーク接続構成

フレッツが適用されるサービスのネットワーク接続構成例を、以下に示します。



● 設定条件

- IP電話サービスは、LAN2 配下のIP電話端末と網側のNW-GWをIPoEで接続する
- IPv6サービスは、LAN0配下のIPv6端末をIPv6ブリッジで接続する
- フレッツ・グループアクセスは、LAN0配下のパソコンを他拠点にPPPoEまたはPPPoEブリッジで接続する (IPアドレスは、LAN型払い出しの設定例)
- インターネット接続は、LAN0配下のパソコンをインターネット (ISP) へPPPoEまたはPPPoEブリッジで接続する

4.2 IP 電話サービスの設定

ここでは、IP 電話サービスを設定する場合の設定方法を説明します。

こんな事に気をつけて

この例は、ご購入時の状態からの設定例です。以前の設定が残っていると、設定例の手順で設定できなかつたり手順どおり設定しても通信できないことがあります。

- ☛ 参照 BR500S 仕様一覧「2.2 設定項目の初期値一覧」(P.15)、
BR500S トラブルシューティング「5 ご購入時の状態に戻すには」(P.42)

● 設定条件

【IP 電話サービス側 (LAN1)】

- 転送レート : 自動認識
- 本装置のLAN1側のIPアドレス : 172.16.2.1

以下の設定条件は、オーバーラップで設定します。

- ネットワーク名 : E-CAS
- スタティック経路 : デフォルトルート
: 172.16.2.2/32
- 法人向けIP電話サービスのNW-GWのIPアドレス : 172.16.2.2
- プロトコル : UDP
- 送信元ポート番号 : 4000-7000 (※)
- TOS 値書き換え : 0x80
- ※) 実際に接続するIP電話端末のSIP、RTPパケットの送信元ポート番号の範囲に合わせてください。
- 上記以外場合
TOS 値書き換え : 0x00
- シェーピングを使用する : 11Mbps
- 輻輳時設定 : IPv4 のみ透過

【IP 電話端末側 (LAN2)】

- 転送レート : 自動認識
- 本装置のLAN2側のIPアドレス : 172.16.1.1
- ネットワークアドレス/ネットマスク : 172.16.1.0/24
- 輻輳時設定 : すべて透過

こんな事に気をつけて

- 本装置のIPアドレスには、ネットワークアドレスまたはブロードキャストアドレスを指定しないでください。「LAN1情報を設定する」場合は、あらかじめ物理LAN1定義を追加する必要があります。
- 法人向けIP電話サービス側のNW-GWのIPアドレスに変更がない場合でも、スタティック経路情報を設定してください。

- ☛ 参照 「IP 電話サービス側のNW-GWのアドレスを変更する」(P.56) 手順8. ~14.

IP 電話サービス側 (LAN1) の IP アドレスを変更する

1. 設定メニューのルータ設定で「LAN 情報」をクリックします。
「LAN 情報」ページが表示されます。
2. 「LAN 情報」でインタフェースが LAN1 の【修正】 ボタンをクリックします。
「LAN1 情報 (物理 LAN : 疑似ルータ)」ページが表示されます。
3. 「IP 関連」をクリックします。
IP 関連の設定項目と「IP アドレス情報」が表示されます。
4. 以下の項目を指定します。
 - IP アドレス → 172.16.2.1
 - ネットマスク → 24 (255.255.255.0)
 - ブロードキャストアドレス → ネットワークアドレス + オール 1

■ IP アドレス情報	
IP アドレス	172.16.2.1
ネットマスク	24 (255.255.255.0)
ブロードキャストアドレス	ネットワークアドレス + オール 1

5. 【保存】 ボタンをクリックします。
6. 画面左側の【設定反映】 ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

IP 電話端末側 (LAN2) の IP アドレスを変更する

1. 設定メニューのルータ設定で「LAN 情報」をクリックします。
「LAN 情報」ページが表示されます。
2. 「LAN 情報」でインタフェースが LAN2 の【修正】 ボタンをクリックします。
「LAN2 情報 (物理 LAN : 疑似ルータ)」ページが表示されます。
3. 「IP 関連」をクリックします。
IP 関連の設定項目と「IP アドレス情報」が表示されます。
4. 以下の項目を指定します。
 - IP アドレス → 172.16.1.1
 - ネットマスク → 24 (255.255.255.0)
 - ブロードキャストアドレス → ネットワークアドレス + オール 1

■ IP アドレス情報	
IP アドレス	172.16.1.1
ネットマスク	24 (255.255.255.0)
ブロードキャストアドレス	ネットワークアドレス + オール 1

5. 【保存】 ボタンをクリックします。

6. 画面左側の [設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

IP 電話の出力パケット制限を変更する

1. 設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。

「相手情報」ページが表示されます。

2. 「ネットワーク情報」をクリックします。

「ネットワーク情報」が表示されます。

3. 「ネットワーク情報」でネットワーク名がE-CASの [修正] ボタンをクリックします。

「ネットワーク情報 (E-CAS : 疑似ルータ)」ページが表示されます。

4. 「共通情報」をクリックします。

共通情報に関する設定項目と「基本情報」が表示されます。

5. 以下の項目を指定します。

- シェーピング → 使用する
- 最大送信レート → 11Mbps

■基本情報	
ネットワーク名	E-CAS
MTUサイズ	1500 バイト
自動接続	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
シェーピング	<input type="radio"/> 使用しない
	<input checked="" type="radio"/> 使用する
最大送信レート	11 Mbps

6. [保存] ボタンをクリックします。

7. 画面左側の [設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

IP 電話サービス側の NW-GW のアドレスを変更する

1. 設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報」ページが表示されます。
2. 「ネットワーク情報」をクリックします。
「ネットワーク情報」が表示されます。
3. 「ネットワーク情報」でネットワーク名が E-CAS の【修正】ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報 (E-CAS : 疑似ルータ)」ページが表示されます。
4. 「接続先情報」をクリックします。
「接続先情報」が表示されます。
5. 「接続先情報」で接続先名が e-cas の【修正】ボタンをクリックします。
別インタフェースから送出的設定項目と「基本情報」が表示されます。
6. 以下の項目を指定します。
 - 転送先ルータ
IPv4 ルータ → 172.16.2.2

■基本情報		
接続先名	e-cas	
送出先インタフェース	LAN1	
転送先ルータ	IPv4ルータ	172.16.2.2
	IPv6ルータ	

7. 【保存】ボタンをクリックします。
8. 設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報」ページが表示されます。
9. 「ネットワーク情報」をクリックします。
「ネットワーク情報」が表示されます。
10. 「ネットワーク情報」でネットワーク名が E-CAS の【修正】ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報 (E-CAS : 疑似ルータ)」ページが表示されます。
11. 「IP 関連」をクリックします。
IP 関連の設定項目と「IP 基本情報」が表示されます。

12. IP関連の設定項目の「スタティック経路情報」をクリックします。

「スタティック経路情報」が表示されます。

13. 以下の項目を指定します。

- ネットワーク → ネットワーク指定
- あて先IPアドレス → 172.16.2.2
- あて先アドレスマスク → 32 (255.255.255.255)

<スタティック経路情報入力フィールド>	
ネットワーク	<input type="radio"/> デフォルトルート <input checked="" type="radio"/> ネットワーク指定
	あて先IPアドレス <input type="text" value="172.16.2.2"/> あて先アドレスマスク <input type="text" value="32 (255.255.255.255)"/>
	ネットワーク指定
メトリック値	<input type="text" value="1"/>
優先度	<input type="text" value="0"/>

14. [追加] ボタンをクリックします。**15. 画面左側の [設定反映] ボタンをクリックします。**

設定した内容が有効になります。

IP電話の出力パケットのTOS値を80に書き換える条件を変更する

1. 設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。

「相手情報」ページが表示されます。

2. 「ネットワーク情報」をクリックします。

「ネットワーク情報」が表示されます。

3. 「ネットワーク情報」でネットワーク名がE-CASの [修正] ボタンをクリックします。

「ネットワーク情報 (E-CAS: 疑似ルータ)」ページが表示されます。

4. 「IP関連」をクリックします。

IP関連の設定項目と「IP基本情報」が表示されます。

5. IP関連の設定項目の「TOS値書き換え情報」をクリックします。

「TOS値書き換え情報」が表示されます。

6. 優先順位1の [修正] ボタンをクリックします。

優先順位1の「TOS値書き換え情報」が表示されます。

7. 以下の項目を指定します。

- プロトコル → udp
- 送信元情報
 - IPアドレス → 指定しない
 - アドレスマスク → 指定しない
 - ポート番号 → 4000-7000
- あて先情報
 - IPアドレス → 指定しない
 - アドレスマスク → 指定しない
 - ポート番号 → 指定しない
- TOS → 指定しない
- 新TOS → 80

<TOS値書き換え情報入力フィールド>		
プロトコル	udp (番号指定: <input type="checkbox"/> “その他”を選択時のみ有効です)	
送信元情報	IPアドレス	
	アドレスマスク	0 (0.0.0.0)
	ポート番号	4000-7000
あて先情報	IPアドレス	
	アドレスマスク	0 (0.0.0.0)
	ポート番号	
TOS		
新TOS	80	

8. [保存] ボタンをクリックします。

9. 画面左側の [設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

4.3 フレッツ・グループアクセスの設定

ここでは、PPPoE 接続を使ってフレッツ・グループアクセスを利用し、接続する場合の設定方法を説明します。

[\[4.2 IP 電話サービスの設定\]](#) (P.53) が設定されていることを前提とします。

● 設定条件

【フレッツ・グループアクセス側】

- ユーザ認証ID : userid (プロバイダから提示された内容)
- ユーザ認証パスワード : userpass (プロバイダから提示された内容)
- 他拠点のネットワークアドレス/ネットマスク : 192.168.2.0/24
- スタティックIPルーティング設定 : 他拠点へのルーティングを設定
- LAN1 ポートを使用する
- 輻輳時設定 : IPv4のみ透過

【プライベートLAN側】

- 本装置のIPアドレス : 192.168.1.1
- ネットワークアドレス/ネットマスク : 192.168.1.0/24
- LAN0 ポートを使う
- 輻輳時設定 : すべて破棄

こんな事に気をつけて

音声品質を確保するため、プライベートLAN側として、2ポート以上のLANポートを使用しないでください。

LAN0 情報を設定する

1. 設定メニューのルータ設定で「LAN 情報」をクリックします。
「LAN 情報」ページが表示されます。
2. 「LAN 情報」でインタフェースがLAN0の【修正】ボタンをクリックします。
「LAN0 情報 (物理 LAN)」ページが表示されます。
3. 「IP 関連」をクリックします。
IP 関連の設定項目と「IP アドレス情報」が表示されます。

4. 以下の項目を指定します。

- IPv4 →使用する
- IPアドレス →指定する
 - IPアドレス →192.168.1.1
 - ネットマスク →24 (255.255.255.0)
 - ブロードキャストアドレス →ネットワークアドレス+オール1

■IPアドレス情報	
IPv4	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない
IPアドレス	<input type="radio"/> DHCPで自動的に取得する
	<input checked="" type="radio"/> 指定する
	IPアドレス <input type="text" value="192.168.1.1"/>
	ネットマスク <input type="text" value="24 (255.255.255.0)"/>
	ブロードキャストアドレス <input type="text" value="ネットワークアドレス+オール1"/>

5. [保存] ボタンをクリックします。

相手情報を設定する

6. 設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。

「相手情報」ページが表示されます。

7. 「ネットワーク情報」をクリックします。

「ネットワーク情報」が表示されます。

8. 以下の項目を指定します。

- ネットワーク名 →fga

<ネットワーク情報追加フィールド>	
ネットワーク名	<input type="text" value="fga"/> <input type="checkbox"/> 疑似ルータ

9. [追加] ボタンをクリックします。

「ネットワーク情報 (fga)」ページが表示されます。

10. 「共通情報」をクリックします。

共通情報の設定項目と「基本情報」が表示されます。

11. 以下の項目を指定します。

- MTUサイズ →1454
- 自動接続 →する

■基本情報	
ネットワーク名	<input type="text" value="fga"/>
MTUサイズ	<input type="text" value="1454"/> バイト
自動接続	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
シェーピング	<input checked="" type="radio"/> 使用しない
	<input type="radio"/> 使用する
	最大送信レート <input type="text"/> Mbps

12. [保存] ボタンをクリックします。

13. 「PPP 関連」をクリックします。

PPP 関連の設定項目と「圧縮情報」が表示されます。

14. 以下の項目を指定します。

- ヘッダ圧縮 (IPCP) →チェックしない
- ヘッダ圧縮 (IPV6CP) →チェックしない

■圧縮情報	
ヘッダ圧縮 (IPCP)	<input type="checkbox"/> VJ <input type="checkbox"/> IPヘッダ圧縮
ヘッダ圧縮 (IPV6CP)	<input type="checkbox"/> IPヘッダ圧縮
データ圧縮 (CCP)	<input type="checkbox"/> LZS

15. [保存] ボタンをクリックします。

16. 「IP 関連」をクリックします。

IP 関連の設定項目と「IP 基本情報」が表示されます。

17. IP 関連の設定項目の「スタティック経路情報」をクリックします。

「スタティック経路情報」が表示されます。

18. 以下の項目を指定します。

- ネットワーク →ネットワーク指定
あて先IPアドレス →192.168.2.0
あて先アドレスマスク →24 (255.255.255.0)
- メトリック値 →1
- 優先度 →0

<スタティック経路情報入力フィールド>	
ネットワーク	<input type="radio"/> デフォルトルート <input checked="" type="radio"/> ネットワーク指定
	あて先IPアドレス <input type="text" value="192.168.2.0"/> あて先アドレスマスク <input type="text" value="24 (255.255.255.0)"/>
	ネットワーク <input type="text" value=""/>
メトリック値	<input type="text" value="1"/>
優先度	<input type="text" value="0"/>

19. [追加] ボタンをクリックします。



他拠点のネットワークが複数ある場合は、手順18.～19.を参考に情報を設定してください。

20. IP 関連の設定項目の「IP 基本情報」をクリックします。

「IP 基本情報」が表示されます。

21. 以下の項目を指定します。

- MSS 書き換え → 使用する
書き換えサイズ → 1414

■ IP基本情報

IPアドレス

設定しない
 設定する

相手側IPアドレス

自側IPアドレス

MSS書き換え

使用しない
 使用する

書き換えサイズ バイト

22. [保存] ボタンをクリックします。

23. 「接続先情報」をクリックします。

「接続先情報」が表示されます。

24. 以下の項目を指定します。

- 接続先名 → fga-1
- 接続先種別 → PPPoE 接続

<接続先情報追加フィールド>

接続先名

接続先種別

専用線接続
 ISDN接続

ダイヤル1 電話番号

サブアドレス

フレームリレー接続

DLCI

モデム接続

ダイヤル1 電話番号

PPPoE接続
 IPトンネル接続
 IPsec/IKE接続
 別インターフェースから送出
 MPLSトンネル接続
 パケット破棄

25. [追加] ボタンをクリックします。

PPPoE 接続の設定項目と「基本情報」が表示されます。

26. 以下の項目を指定します。

- 使用インタフェース → LAN1
- DNSサーバ → 指定しない

■基本情報	
接続先名	fga-1
使用インタフェース	LAN1
DNSサーバ	

27. [保存] ボタンをクリックします。**28. PPPoE 接続の設定項目の「PPP 情報」をクリックします。**

「PPP 情報」が表示されます。

29. 以下の項目を指定します。

- 送信認証情報
 - 認証ID → userid (NTTから提示された内容)
 - 認証パスワード → userpass (NTTから提示された内容)

■PPP情報		
送信認証情報	認証ID	userid
	認証パスワード	*****

30. [保存] ボタンをクリックします。**31. 画面左側の [設定反映] ボタンをクリックします。**

設定した内容が有効になります。

4.4 IPv6 サービスの設定

ここでは、ブリッジでIPv6を使用する場合の設定方法を説明します。

「4.2 IP 電話サービスの設定」(P.53) が設定されていることを前提とします。

● 設定条件

- IPv6データのみブリッジする
- STP機能を使用しない

こんな事に気をつけて

ブリッジ機能によりネットワークを接続する場合は、ブリッジ通信をするパケット以外をフィルタリングする設定にしてください。フィルタリングしないと不要なトラフィックが発生するだけでなく、IP通信できなくなる場合があります。

ブリッジ情報を設定する (LAN0)

1. 設定メニューのルータ設定で「LAN 情報」をクリックします。

「LAN情報」ページが表示されます。

2. 「LAN 情報」でインタフェースがLAN0の「修正」ボタンをクリックします。

「LAN0情報 (物理 LAN)」ページが表示されます。

3. 「ブリッジ関連」をクリックします。

ブリッジ関連の設定項目と「ブリッジ情報」が表示されます。

4. 以下の項目を指定します。

- ブリッジ機能 →使用する
- STP 機能 →使用しない

5. 「保存」ボタンをクリックします。

6. ブリッジ関連の設定項目の「MAC フィルタリング情報」をクリックします。

「MAC フィルタリング情報」が表示されます。

7. 以下の項目を指定します。

- 動作 → 透過
- 送信元MACアドレス → すべて
- あて先MACアドレス → すべて
- フォーマット種別 → Ethernet形式
type → 86DD

<MACフィルタリング情報入力フィールド>	
動作	<input checked="" type="radio"/> 透過 <input type="radio"/> 遮断
送信元MACアドレス	すべて アドレス指定<“指定する”を選択時のみ有効です> <input type="text"/>
あて先MACアドレス	すべて アドレス指定<“指定する”を選択時のみ有効です> <input type="text"/>
フォーマット種別	Ethernet形式 (“LLC形式”の場合はLSAP、“Ethernet形式”の場合はtype値を入力してください) 86DD

8. [追加] ボタンをクリックします。

9. 手順 7.～8. を参考に、以下の項目を指定します。

- 動作 → 遮断
- 送信元MACアドレス → すべて
- あて先MACアドレス → すべて
- フォーマット種別 → すべて

こんな事につけて

すでに「[4.6 PPPoEブリッジの設定](#)」(P.71) が設定されている場合は、設定済みの遮断のフィルタリング情報の優先順位を一番下に移動してください。

ブリッジ情報を設定する (LAN1)

10. 設定メニューのルータ設定で「LAN情報」をクリックします。

「LAN情報」ページが表示されます。

11. 「LAN情報」でインタフェースがLAN1の【修正】ボタンをクリックします。

「LAN1情報 (物理LAN: 疑似ルータ)」ページが表示されます。

12. 「ブリッジ関連」をクリックします。

ブリッジ関連の設定項目と「ブリッジ情報」が表示されます。

13. 以下の項目を指定します。

- ブリッジ機能 →使用する
- STP機能 →使用しない

■ブリッジ情報					
ブリッジ機能	<input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> 使用する				
グループ識別子	0				
STP機能	<input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> 使用する				
	<table border="1"> <tr> <td>パスコスト</td> <td><input checked="" type="radio"/> 自動決定 <input type="radio"/> 指定する</td> </tr> <tr> <td>インタフェース優先度</td> <td>128</td> </tr> </table>	パスコスト	<input checked="" type="radio"/> 自動決定 <input type="radio"/> 指定する	インタフェース優先度	128
	パスコスト	<input checked="" type="radio"/> 自動決定 <input type="radio"/> 指定する			
インタフェース優先度	128				

14. [保存] ボタンをクリックします。

15. ブリッジ関連の設定項目の「MACフィルタリング情報」をクリックします。

「MACフィルタリング情報」が表示されます。

16. 以下の項目を指定します。

- 動作 →透過
- 送信元MACアドレス →すべて
- あて先MACアドレス →すべて
- フォーマット種別 → Ethernet 形式
type → 86DD

<MACフィルタリング情報入力フィールド>	
動作	<input checked="" type="radio"/> 透過 <input type="radio"/> 遮断
送信元MACアドレス	すべて アドレス指定(指定するを選択時のみ有効です)
あて先MACアドレス	すべて アドレス指定(指定するを選択時のみ有効です)
フォーマット種別	Ethernet形式 (“LLC形式”の場合はLSAP、“Ethernet形式”の場合はtype値を入力してください)
	86DD

17. [追加] ボタンをクリックします。

18. 手順 16.～17.を参考に、以下の項目を指定します。

- 動作 →遮断
- 送信元MACアドレス →すべて
- あて先MACアドレス →すべて
- フォーマット種別 →すべて

こんな事に気をつけて

すでに「4.6 PPPoEブリッジの設定」(P.71) が設定されている場合は、設定済みの遮断のフィルタリング情報の優先順位を一番下に移動してください。

IPv6 ルーティング機能を停止する

19. 設定メニューのルータ設定で「ブリッジ情報」をクリックします。

「ブリッジ情報」ページが表示されます。

20. 「ブリッジグループ情報」をクリックします。

「ブリッジグループ情報」が表示されます。

21. 「ブリッジグループ情報」でグループ識別子が0の【修正】ボタンをクリックします。

22. 以下の項目を指定します。

- IPv6ルーティング機能 →使用しない

0	IPv6ルーティング機能	<input type="radio"/> 使用する
		<input checked="" type="radio"/> 使用しない
	転送ポリシー	<input checked="" type="radio"/> strict
		<input type="radio"/> loose

23. 【保存】ボタンをクリックします。

24. 画面左側の【設定反映】ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

4.5 インターネット (ISP) 接続の設定

ここでは、PPPoE 接続を使って、インターネットへ接続する場合の設定方法を説明します。

こんな事に気をつけて

この例は、ご購入時の状態からの設定例です。以前の設定が残っていると、設定例の手順で設定できなかつたり手順どおり設定しても通信できないことがあります。

参照 BR500S トラブルシューティング [5 ご購入時の状態に戻すには] (P.42)

● 設定条件

【通信事業者側】

- ユーザ認証ID : userid (プロバイダから提示された内容)
- ユーザ認証パスワード : userpass (プロバイダから提示された内容)
- NAT 機能を使用する
- LAN0 ポートを使用する
- 輻輳時設定 : IPv4のみ透過

【プライベートLAN側】

- 本装置のIPアドレス : 192.168.1.1
- ネットワークアドレス/ネットマスク : 192.168.1.0/24
- DHCPサーバ機能を使用する
- 輻輳時設定 : すべて破棄

こんな事に気をつけて

音声品質を確保するため、プライベートLAN側として、2ポート以上のLANポートを使用しないでください。

プライベートLANのIPアドレスを変更する

1. 設定メニューのルータ設定で「LAN 情報」をクリックします。
「LAN 情報」ページが表示されます。
2. 「LAN 情報」でインタフェースがLAN0の【修正】ボタンをクリックします。
「LAN0 情報 (物理 LAN)」ページが表示されます。
3. 「IP 関連」をクリックします。
IP 関連の設定項目と「IP アドレス情報」が表示されます。

4. 以下の項目を指定します。

- IPv4 →使用する
- IPアドレス →指定する
 - IPアドレス →192.168.1.1
 - ネットマスク →24 (255.255.255.0)
 - ブロードキャストアドレス →ネットワークアドレス+オール1

■IPアドレス情報		
IPv4	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない	
IPアドレス	<input type="radio"/> DHCPで自動的に取得する <input checked="" type="radio"/> 指定する	
	IPアドレス	192.168.1.1
	ネットマスク	24 (255.255.255.0)
	ブロードキャストアドレス	ネットワークアドレス+オール1

5. [保存] ボタンをクリックします。

6. 画面左側の [設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

通信事業者の認証情報を設定する

1. 設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。

「相手情報」ページが表示されます。

2. 「ネットワーク情報」をクリックします。

「ネットワーク情報」が表示されます。

3. 「ネットワーク情報」でネットワーク名がinternetの【修正】ボタンをクリックします。

「ネットワーク情報 (internet)」ページが表示されます。

4. 「接続先情報」をクリックします。

「接続先情報」が表示されます。

5. 「接続先情報」で接続先名がISP-1の【修正】ボタンをクリックします。

PPPoE 接続の設定項目と「基本情報」が表示されます。

6. PPPoE 接続の設定項目の「PPP 情報」をクリックします。

「PPP 情報」が表示されます。

7. 以下の項目を指定します。

- 送信認証情報
 - 認証ID →userid (プロバイダから提示された内容)
 - 認証パスワード →userpass (プロバイダから提示された内容)

■PPP情報		
送信認証情報	認証ID	userid
	認証パスワード	*****

8. **【保存】 ボタンをクリックします。**
9. **画面左側の【設定反映】 ボタンをクリックします。**
設定した内容が有効になります。

4.6 PPPoEブリッジの設定

ここでは、ブリッジでPPPoEを使用する場合の設定方法を説明します。

「4.2 IP電話サービスの設定」(P.53) が設定されていることを前提とします。

● 設定条件

- PPPoEデータのみブリッジする
- STP機能を使用しない

こんな事に気をつけて

ブリッジ機能によりネットワークを接続する場合は、ブリッジ通信をするパケット以外をフィルタリングする設定にしてください。フィルタリングしないと不要なトラフィックが発生するだけでなく、IP通信できなくなる場合があります。

ブリッジ情報を設定する (LAN0)

1. 設定メニューのルータ設定で「LAN情報」をクリックします。

「LAN情報」ページが表示されます。

2. 「LAN情報」でインタフェースがLAN0の「修正」ボタンをクリックします。

「LAN0情報 (物理LAN)」ページが表示されます。

3. 「ブリッジ関連」をクリックします。

ブリッジ関連の設定項目と「ブリッジ情報」が表示されます。

4. 以下の項目を指定します。

- ブリッジ機能 →使用する
- STP機能 →使用しない

■ブリッジ情報	
ブリッジ機能	<input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> 使用する
グループ識別子	0
STP機能	<input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> 使用する
	パスコスト <input checked="" type="radio"/> 自動決定 <input type="radio"/> 指定する []
	インタフェース優先度 128

5. 「保存」ボタンをクリックします。

6. ブリッジ関連の設定項目の「MACフィルタリング情報」をクリックします。

「MACフィルタリング情報」が表示されます。

7. 以下の項目を指定します。

- 動作 → 透過
- 送信元MACアドレス → すべて
- あて先MACアドレス → すべて
- フォーマット種別 → Ethernet形式
type → 8863

<MACフィルタリング情報入力フィールド>	
動作	<input checked="" type="radio"/> 透過 <input type="radio"/> 遮断
送信元MACアドレス	すべて アドレス指定(“指定する”を選択時のみ有効です)
あて先MACアドレス	すべて アドレス指定(“指定する”を選択時のみ有効です)
フォーマット種別	Ethernet形式 (“LLC形式”の場合はLSAP、“Ethernet形式”の場合はtype値を入力してください)
	8863

8. [追加] ボタンをクリックします。

9. 手順7.～8.を参考に、以下の項目を指定します。

- 動作 → 透過
- 送信元MACアドレス → すべて
- あて先MACアドレス → すべて
- フォーマット種別 → Ethernet形式
type → 8864

10. 手順7.～8.を参考に、以下の項目を指定します。

- 動作 → 遮断
- 送信元MACアドレス → すべて
- あて先MACアドレス → すべて
- フォーマット種別 → すべて

こんな事に気をつけて

すでに「[4.4 IPv6 サービスの設定](#)」(P.64) が設定されている場合は、設定済みの遮断のフィルタリング情報の優先順位を一番下に移動してください。

ブリッジ情報を設定する (LAN1)

11. 設定メニューのルータ設定で「LAN 情報」をクリックします。

「LAN 情報」ページが表示されます。

12. 「LAN 情報」でインタフェースがLAN1の「修正」ボタンをクリックします。

「LAN1 情報 (物理 LAN : 疑似ルータ)」ページが表示されます。

13. 「ブリッジ関連」をクリックします。

ブリッジ関連の設定項目と「ブリッジ情報」が表示されます。

14. 以下の項目を指定します。

- ブリッジ機能 →使用する
- STP機能 →使用しない

■ブリッジ情報					
ブリッジ機能	<input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> 使用する				
グループ識別子	0				
STP機能	<input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> 使用する				
	<table border="1"> <tr> <td>パスコスト</td> <td><input checked="" type="radio"/> 自動決定 <input type="radio"/> 指定する</td> </tr> <tr> <td>インタフェース優先度</td> <td>128</td> </tr> </table>	パスコスト	<input checked="" type="radio"/> 自動決定 <input type="radio"/> 指定する	インタフェース優先度	128
	パスコスト	<input checked="" type="radio"/> 自動決定 <input type="radio"/> 指定する			
インタフェース優先度	128				

15. [保存] ボタンをクリックします。

16. ブリッジ関連の設定項目の「MACフィルタリング情報」をクリックします。

「MACフィルタリング情報」が表示されます。

17. 以下の項目を指定します。

- 動作 →透過
- 送信元MACアドレス →すべて
- あて先MACアドレス →すべて
- フォーマット種別 →Ethernet形式
type →8863

<MACフィルタリング情報入力フィールド>	
動作	<input checked="" type="radio"/> 透過 <input type="radio"/> 遮断
送信元MACアドレス	すべて アドレス指定(“指定する”を選択時のみ有効です)
あて先MACアドレス	すべて アドレス指定(“指定する”を選択時のみ有効です)
フォーマット種別	Ethernet形式 (“LLC形式”の場合はLSAP、“Ethernet形式”の場合はtype値を入力してください)
	8863

18. [追加] ボタンをクリックします。

19. 手順 17.～18.を参考に、以下の項目を指定します。

- 動作 →透過
- 送信元MACアドレス →すべて
- あて先MACアドレス →すべて
- フォーマット種別 →Ethernet形式
type →8864

20. 手順 17. ～ 18. を参考に、以下の項目を指定します。

- 動作 → 遮断
- 送信元MACアドレス → すべて
- あて先MACアドレス → すべて
- フォーマット種別 → すべて

こんな事に気をつけて

すでに「[4.4 IPv6 サービスの設定](#)」(P.64) が設定されている場合は、設定済みの遮断のフィルタリング情報の優先順位を一番下に移動してください。

21. 画面左側の [設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

索引

記号

10/100BASE-TX ポート	16
100M ランプ	16

B

B1/B2 ランプ	15
B フレッツ	50

C

CD-ROM	14
CHECK ランプ	15, 17
COM ポート	17
COM ランプ	15

D

Duplex	16
--------------	----

F

FULL ランプ	16
----------------	----

I

ipconfig	35
IPv6 サービス	50, 64
IP 電話サービス	50, 53
ISDN U ポート	17

L

LAN カード	29
LAN ケーブル	29, 30
LAN 接続	29
LAN ランプ	16

M

MAC /ファームラベル	20
MAC アドレス	35
Microsoft® Internet Explorer	42

N

Netscape Communicator	42
-----------------------------	----

P

POWER ランプ	15, 17
PPPoE 接続	68

PPPoE ブリッジ	50, 71
Proxy サーバ	42, 43

R

RS232C ケーブル	37
-------------------	----

S

S/T ポート	17
---------------	----

T

TCP/IP ソフトウェア	29
telnet	36
to HUB to PC スイッチ	15

W

Windows® 2000	32
Windows® 95	43
Windows® 98	43
Windows® Me	43
Windows® XP	34
winiptfg	35
WWW ブラウザ	42

あ

アダプタプラグ	14
---------------	----

い

インターネット接続	50, 68
-----------------	--------

か

かんたん設定メニュー	44
管理者パスワード	46

け

警告表示	19
ケーブルホルダ	14
ケーブルホルダの取り付け方法	21

こ

工事保守者用パスワード	46
ご使用になる前に	14
コンソールケーブル	14
コンソールポート	15, 37
梱包内容	14

さ

サービスエリア24

し

湿温度条件23

詳細設定メニュー44

せ

製造ラベル20

接続構成例50

設置26

設置環境23

設置条件23

設置スペース25

設定用パソコン32, 39

そ

操作メニュー44

装置銘板ラベル20

ソフトウェア29, 37

た

ターミナルアダプタ17

ターミナルソフトウェア39

台足の取り外し26

卓上設置25

つ

通信速度16

通信ソフトウェア37

通信モード16

て

ディップスイッチ18

電源ケーブル14, 31, 38

電源コネクタ17

電源条件23

電源スイッチ17

電源の投入32, 39

と

時計の設定47

トップページ44

に

入力文字一覧48

ね

ネットワーク接続構成52

は

ハードウェア29, 37

パスワードの設定45

ひ

表示メニュー44

ふ

物理接続構成51

フレッツ・グループアクセス50, 59

ほ

保守スペース24

保守メニュー44

本装置 上面19

本装置 前面15

本装置 側面18

本装置 底面20

本装置 背面17

ゆ

ユーザパスワード46

ら

ラック搭載27

り

リセットスイッチ17

利用形態50

ろ

ログインパスワード46